

Veritas NetBackup™ 52xx Appliance 初期構成ガイド

リリース 3.1.1

VERITAS™

Veritas NetBackup™ 52xx Appliance 初期構成ガイド

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所です。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供され、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202 以下の「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となり、Veritas による納品が内部設置型またはホスト型のサービスのいずれであるかは問いません。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通(日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

APPL.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	初期構成の準備	5
	アプライアンスの構成ガイドラインについて	5
	アプライアンスのシステム構成順序について	9
	NetBackup 52xx アプライアンスロールについて	10
	構成されていないアプライアンスに対するコマンドの制限	11
	IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて	11
	NetBackup Appliance Web Consoleの初期構成ページの概要	13
	NetBackup アプライアンスの初期構成チェックリストについて	24
	NetBackup Appliance の初期構成チェックリスト	25
	最大伝送単位サイズの設定について	29
第 2 章	初期構成の手順	31
	NetBackup 52xx Appliance の初期構成を NetBackup Appliance Web Consoleから実行する	31
	NetBackup Appliance Shell Menuからの 52xx マスターサーバーアプラ イアンスの初期構成の実行	48
	マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信	57
	NetBackup Appliance Shell Menuからの 52xx メディアサーバーアプラ イアンスの初期構成の実行	59
	NetBackup 5240 CloudCatalyst Appliance での初期構成の実行	70
	マスターサーバーがアプライアンスのときのクレデンシャルブローカー 用の証明書の配備	84
第 3 章	構成後の手順	86
	NetBackup アプライアンスでの NIC1 (eth0) ポートの使用について	86
	NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッ ケージのダウンロード	87
	NetBackup appliance から Windows コンピュータへの NetBackup 管理 コンソールのダウンロード	90
	CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのイン ストール	91
索引		95

初期構成の準備

この章では以下の項目について説明しています。

- [アプライアンスの構成ガイドラインについて](#)
- [アプライアンスのシステム構成順序について](#)
- [NetBackup 52xx アプライアンスロールについて](#)
- [IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて](#)
- [NetBackup Appliance Web Consoleの初期構成ページの概要](#)
- [NetBackup アプライアンスの初期構成チェックリストについて](#)
- [最大伝送単位サイズの設定について](#)

アプライアンスの構成ガイドラインについて

新しいアプライアンスを配備するときは次の構成ガイドラインを使います。

表 1-1 アプライアンスの構成ガイドライン

パラメータ	説明
初期構成時の接続	<p>アプライアンスの初期構成を実行するときは、接続が切断しないように対策を採ることを推奨します。初期構成時に接続が切断されると、初期構成に失敗します。</p> <p>次のイベントを避けるように、アプライアンスの構成に使うコンピュータを設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none">■ コンピュータがスリープになる状態■ コンピュータがシャットダウンしたり、電源が喪失する状態■ コンピュータのネットワーク接続が切断される状態

パラメータ	説明
NetBackup Appliance Web Consoleアクセス	<p>NetBackup アプライアンスソフトウェアバージョン 2.6.0.4 から、NetBackup Appliance Web Console はデフォルトポート 443 の HTTPS 経由のみでアクセスできます。HTTP 経由のポート 80 は無効になっています。</p> <p>NetBackup アプライアンスのソフトウェアバージョン 2.6.1 に、この変更の例外があります。そのバージョンでは、NetBackup Appliance Web Console はデフォルトポート 80 の HTTPS のみを經由してアクセス可能です。</p>
必須の名前とアドレス	<p>構成する前に、次の情報を収集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アプライアンスのネットワーク IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイ IP アドレス ■ すべてのアプライアンスのネットワーク名 ■ DNS またはホストの情報 <p>メモ: DNS が使われる場合は、すべてのアプライアンスとマスターサーバーのネットワーク名が DNS で解決可能であることを確認してください (FQDN と省略名)。</p> <p>DNS を使わない場合は、初期構成のときにアプライアンスに適切なホストエントリを入力していることを確かめてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アプライアンスアクセスのためのパスワード アプライアンスにアクセスするために使うデフォルトのパスワードは P@ssw0rd です。 ■ NetBackup ストレージユニットの名前 アプライアンスの役割を構成するとき、ストレージ名フィールドが表示されます。デフォルト名を変更することも残すこともできます。 ストレージユニットとディスクプールのデフォルト値が以下のように NetBackup 管理コンソールに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ AdvancedDisk のデフォルト値 デフォルトのストレージユニット名: stu_adv_<hostname> デフォルトのディスクプール名: dp_adv_<hostname> ■ NetBackup 重複排除のデフォルト値 デフォルトのストレージユニット名: stu_disk_<hostname> デフォルトのディスクプール名: dp_disk_<hostname> <p>メモ: アプライアンスの短いホスト名は、デフォルトのストレージユニット名とディスクプール名として表示されます。</p>
デフォルトのユーザー名とパスワード	<p>NetBackup の新しいアプライアンスには、次のデフォルトのログインのクレデンシャルが付属していません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザー名: admin ■ パスワード: P@ssw0rd <p>メモ: 初期構成を実行するときに、デフォルトのパスワードを変更する必要はありません。ただし、環境のセキュリティを高めるためにパスワードを定期的に変更する必要があります。現在のパスワードの記録は安全な場所に保管するように徹底してください。</p>

パラメータ	説明
デフォルトのメンテナンスユーザーパスワード	<p>アプライアンスはメンテナンスユーザーアカウントの既知のデフォルトパスワードが設定された状態で提供されます。このパスワードは、アプライアンスのメンテナンスモードに不正にアクセスされないように、初期構成の前または直後に変更してください。なお、アプライアンスのトラブルシューティングサービスが必要な場合に、ベリタステクニカルサポートにメンテナンスユーザーパスワードを知らせる必要があります。</p> <p>それぞれの初期構成手順には、デフォルトのメンテナンスユーザーパスワードの変更方法を説明する手順が含まれています。</p>
ファイアウォールポートの使用	<p>次のポートがマスターサーバーとメディアサーバーの間にあるあらゆるファイアウォールで開いていることを確かめてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 13724 (vnetd) ■ 13720 (bprd) ■ 1556 (PBX) ■ 7578 (TCP プロトコルを使うときは 5220 アプライアンス専用) <p>NetBackup と NetBackup アプライアンスのファイアウォールポートについて詳しくは、ベリタスのサポート Web サイトにある次の TechNote を参照してください。</p> <p>https://www.veritas.com/support/en_US/article.TECH178855</p>

パラメータ	説明
メディアサーバーの役割	<p>NetBackup Appliance をメディアサーバーとして構成する前に、このアプライアンスで使うマスターサーバーを新しいアプライアンスのメディアサーバー名に更新する必要があります。マスターサーバーが NetBackup Appliance でも従来の NetBackup マスターサーバーでも、新しいアプライアンスメディアサーバーの名前はマスターサーバーの [追加サーバー (Additional Servers)] リストに追加する必要があります。</p> <p>新しいアプライアンスを構成する前にマスターサーバーに新しいアプライアンスメディアサーバー名を追加すると、新しいアプライアンスで初期構成を実行するときに次のメリットがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ メディアサーバーが NetBackup ドメインの一部になり、適切なネットワーク通信が可能になる。 ■ メディアサーバーがストレージサーバーとディスクプールエントリを作成できるようになる。 <p>このアプライアンスをメディアサーバーとして構成するには、アプライアンスでセキュリティ証明書を配備して、マスターサーバーを信頼する必要があります。CA 証明書および Host ID ベースの証明書は、このアプライアンスで使用するマスターサーバーから配備する必要があります。マスターサーバーを信頼することを選択した場合、CA 証明書は自動的にダウンロードされ、配備されます。</p> <p>Host ID ベースの証明書を配備するには</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ マスターサーバーのセキュリティレベルが [最高 (Very High)] である場合、認証トークンを手動で入力して、Host ID ベースの証明書をメディアサーバーに配備する必要があります。 ■ マスターサーバーのセキュリティレベルが [高 (High)] または [中 (Medium)] である場合、認証トークンは必要ありません。Host ID ベースの証明書はメディアサーバーに自動的に配備されます。 <p>メモ: マスターセキュリティレベルに関係なく、アプライアンスに対し出荷時の設定へのリセットまたは再イメージングが実行されると、アプライアンスの再構成時に再発行トークンが必要です。</p> <p>セキュリティ証明書がアプライアンスメディアサーバーに配備されている場合、役割の構成中にそれらを再度配備するように要求されることはありません。</p> <p>セキュリティ証明書について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup のセキュリティ証明書」の章を参照してください。</p> <p>p.57 の「マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信」を参照してください。</p>
ディスクストレージオプションのライセンス	<p>アプライアンスには一定期間後に期限切れになる非売品版 (NFR) ライセンスキーが付属しています。アプライアンスはこのライセンスキーがまもなく期限切れになるという警告メッセージを提供しません。したがって、アプライアンスを取り付けて構成した後はこのキーを恒久キーに変更することをお勧めします。ライセンスキーを表示し変更する方法の情報と手順については、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>NFR キーは、期限切れになる前に恒久キーと置き換える必要があります。</p>

パラメータ	説明
NetBackup のバージョンの互換性	<p>NetBackup アプライアンスリリース 3.1.1 には NetBackup バージョン 8.1.1 が含まれます。</p> <p>このアプライアンスをメディアサーバーとして構成する予定がある場合は、関連マスターサーバーとクライアントの次のガイドラインに従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アプライアンスのマスターサーバー このアプライアンスメディアサーバーとともに使う予定があるアプライアンスマスターサーバーでは、アプライアンスソフトウェアバージョン 3.1.1 以降を使う必要があります。アプライアンスマスターサーバーで現在アプライアンスソフトウェアバージョン 3.1 以前を使っている場合は、このアプライアンスを構成する前にバージョン 3.1.1 にアップグレードする必要があります。 ■ 従来の NetBackup マスターサーバー 従来の NetBackup マスターサーバーとともにアプライアンスメディアサーバーを使うには、マスターサーバーで NetBackup バージョン 8.1.1 以降を使う必要があります。NetBackup マスターサーバーで現在 NetBackup バージョン 8.1 以前を使っている場合は、このアプライアンスを構成する前にバージョン 8.1.1 にアップグレードする必要があります。 ■ クライアントとクライアントアドオン NetBackup クライアントではアプライアンスと同じか、またはそれ以前のソフトウェアバージョンを使用する必要があります。クライアントはアプライアンスよりも新しいバージョンでは動作できません。たとえば、NetBackup バージョン 3.1.1 のクライアントは、バージョン 3.1.1 以降のアプライアンスサーバーのみで使用できます。クライアントのアドオンもクライアントと同じバージョンにする必要があります。

p.9 の「[アプライアンスのシステム構成順序について](#)」を参照してください。

アプライアンスのシステム構成順序について

システムに複数のアプライアンスまたはストレージ拡張ユニットが含まれる場合、特定の順序で構成を行う必要があります。

システムコンポーネントに基づくアプライアンス構成の適切な順序を以下に説明します。

表 1-2 アプライアンスの構成順序

システム	構成順序
単一のアプライアンスシステム (スタンドアロン)	<p>アプライアンスをマスターサーバーとして構成します。</p> <p>p.31 の「NetBackup 52xx Appliance の初期構成を NetBackup Appliance Web Console から実行する」を参照してください。</p> <p>p.48 の「NetBackup Appliance Shell Menu からの 52xx マスターサーバーアプライアンスの初期構成の実行」を参照してください。</p>

システム	構成順序
複数のアプライアンスシステム (マスターサーバーとメディアサーバー)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最初のアプライアンスをマスターサーバーとして構成します。 p.31 の「NetBackup 52xx Appliance の初期構成を NetBackup Appliance Web Consoleから実行する」を参照してください。 ■ p.48 の「NetBackup Appliance Shell Menuからの 52xx マスターサーバーアプライアンスの初期構成の実行」を参照してください。 ■ 構成済みのマスターサーバーに新しいメディアサーバーのホスト名を追加します。 p.57 の「マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信」を参照してください。 ■ 新しいメディアサーバーのホスト名でマスターサーバーが更新されたら、残りのアプライアンスをメディアサーバーとして構成します。 p.31 の「NetBackup 52xx Appliance の初期構成を NetBackup Appliance Web Consoleから実行する」を参照してください。 p.59 の「NetBackup Appliance Shell Menuからの 52xx メディアサーバーアプライアンスの初期構成の実行」を参照してください。
ストレージ拡張ユニットを含むシステム	すべてのアプライアンスを構成した後、物理的に接続済みであるサーバーにストレージ拡張ユニットを追加します。

p.5 の「[アプライアンスの構成ガイドラインについて](#)」を参照してください。

NetBackup 52xx アプライアンスロールについて

アプライアンスを初めて構成するときは、そのアプライアンスに対応するロールを選択する必要があります。ロールは次のようなサーバーの種類を示します。

表 1-3 **アプライアンスロールとモードの説明**

ロール	説明
Master	このロールを選択して、アプライアンスをマスターサーバーとして構成します。

ロール	説明
Media	<p>このロールを選択して、アプライアンスをメディアサーバーとして構成します。</p> <p>このアプライアンスで使用する予定のマスターサーバーを特定する必要もあります。マスターサーバーは、従来の NetBackup マスターサーバーまたは NetBackup Appliance マスターサーバーのいずれかになります。</p> <p>メディアサーバーのロールを選択するときは、以下のディスクボリュームのストレージ名を定義する必要もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [複製ボリューム (Deduplication volume)] ■ [AdvancedDisk ボリューム (AdvancedDisk volume)]

p.24 の「[NetBackup アプライアンスの初期構成チェックリストについて](#)」を参照してください。

構成されていないアプライアンスに対するコマンドの制限

アプライアンスを管理するには、事前に構成しておく必要があります。初期構成に使うコマンドは、新しいアプライアンスまたは出荷時の設定にリセットされたアプライアンスに対してのみ実行できるコマンドです。これらのコマンドを初期構成以外に使うと、予期しない動作または望ましくない動作につながる場合があります。この状況を防止するために、Veritas はアプライアンスの初期構成が完了するまで管理コマンドを使わないことをお勧めします。

構成されていないアプライアンスに対して有効なコマンドについて詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

NetBackup Appliance 初期構成ガイド

NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド

IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて

NetBackup appliance はデュアルスタック IPv4-IPv6 ネットワークでサポートされ、バックアップとリストアの目的で IPv6 クライアントと通信できます。IPv6 アドレスをアプライアンスに割り当て、DNS を構成し、IPv6 ベースシステムを含めるようにルーティングを構成できます。

NetBackup Appliance Web Console または NetBackup Appliance Shell Menu を使って IPv4 と IPv6 のアドレス情報を入力できます。

IPv6 アドレスに関する次の注意事項を確認してください。

- **NetBackup appliance** は、ピュア IPv6 ネットワークをサポートしません。アプライアンス用の IPv4 アドレスを構成する必要があります。構成しない場合、(hostname set コマンドを必要とする) 初期構成に失敗します。このコマンドを機能させるには、少なくとも 1 つの IPv4 アドレスが必要です。
たとえば、特定のホストの hostname を v46 に設定するとします。これを実行するには、特定のホストに少なくとも 1 つの IPv4 アドレスがあることを最初に確認し、次のコマンドを実行します。

```
Main_Menu > Network > Hostname set v46
```
- 使用できるのはグローバルアドレスのみです。リンクローカルスコープまたはノードローカルスコープのアドレスは使用できません。グローバルスコープアドレスと一意のローカルアドレスは両方ともホストによってグローバルアドレスとして扱われます。
グローバルスコープ IP アドレスは、グローバルにルーティング可能なアドレスを意味します。一意のローカルアドレスはグローバルアドレスとして扱われます。
- 同じコマンドで、IPv4 と IPv6 の両方のアドレスを使うことはできません。たとえば、Configure 9ffe::9 255.255.255.0 1.1.1.1 を使うことはできません。Configure 9ffe::46 64 9ffe::49 eth1 を使う必要があります。
- IPv6 アドレスへの IPv4 アドレスの埋め込みはサポートされていません。たとえば、9ffe::10.23.1.5 のようなアドレスを使うことはできません。
- アプライアンスのメディアサーバーの IPv6 アドレスとホスト名が使用可能な場合は、マスターサーバーにアプライアンスのメディアサーバーを追加できます。
たとえば、マスターサーバーにアプライアンスのメディアサーバーを追加するには、アプライアンスのメディアサーバーの IPv6 アドレスを次のように入力します。
例:

```
Main > Network > Hosts add 9ffe::45 v45 v45
```

```
Main > Settings > NetBackup AdditionalServers Add v45
```

アプライアンスのメディアサーバーの IPv4 アドレスを提供する必要はありません。
- 純粋な IPv6 クライアントは、NetBackup の場合と同様の方法でサポートされます。
- NIC (Network Interface Card) または結合に対して IPv4 アドレスを 1 つのみ入力できます。ただし、NIC または結合に対して複数の IPv6 アドレスを入力できます。
- NFS (Network File System) または CIFS (Common Internet File System) のプロトコルは、アプライアンスの IPv4 ネットワーク上でサポートされます。NFS または CIFS は、IPv6 ネットワークではサポートされません。
- NetBackup クライアントが IPv6 上のメディアサーバーアプライアンスと通信できるようになりました。
- Main_Menu > Network > Hosts コマンドは、1 つの NIC (Network Interface Card) を持つ同じホスト名への複数の IPv6 アドレスの割り当てをサポートします。ただし、このコマンドでは、1 つの NIC を持つ特定のホスト名に 1 つの IPv4 アドレスのみを割り当てることができます。

- ゲートウェイアドレスを指定せずにネットワークインターフェースの IPv6 アドレスを追加できます。
 詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

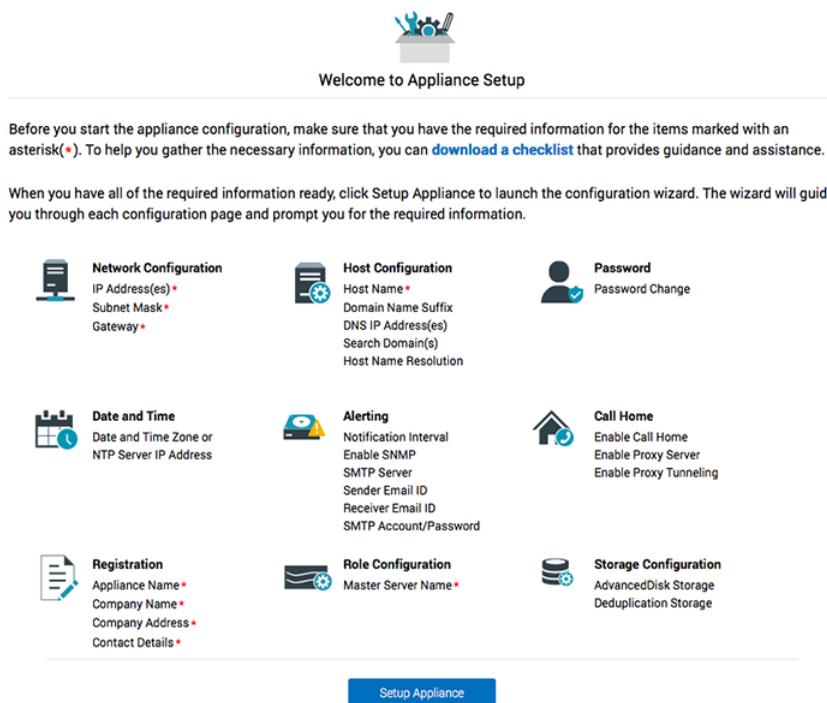
NetBackup Appliance Web Consoleの初期構成ページの概要

NetBackup Appliance Web Consoleで適切な情報を一連のページに入力して初期構成を実行できます。以下に、各ページと必要な情報の簡単な説明を示します。

Appliance の設定へようこそ (Welcome to Appliance Setup)

このページは、未構成のアプライアンスにログオンすると表示されます。初期構成に必要な情報の概略を示します。

図 1-1 [アプライアンスの設定へようこそ (Welcome to Appliance Setup)] ページ

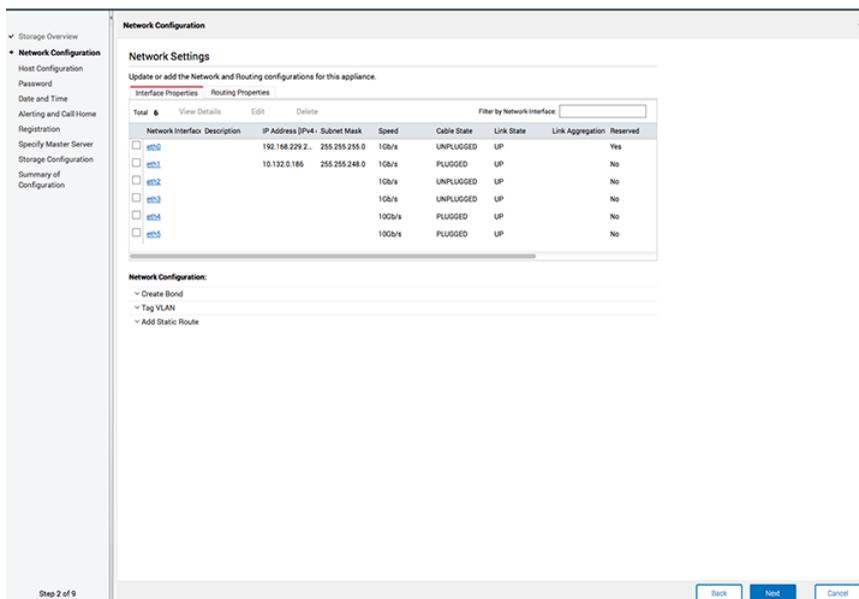


メモ: このページには、初期構成の全ページの全データ入力フィールドについて説明するチェックリストをダウンロードするためのリンクが示されています。初期構成を始める前に、[チェックリストをダウンロード (download a checklist)]リンクをクリックして必要な情報をすべて書き留めておくことをお勧めします。

ネットワーク構成 (Network Configuration)

このページでは、企業のネットワーク情報を入力します。上部のテーブルには、インターフェースとルーティングのプロパティを入力する[インターフェースプロパティ (Interface Properties)]タブと[ルーティングプロパティ (Routing Properties)]タブがあります。下部の領域には、[ボンドの作成 (Create Bond)]、[VLAN のタグ付け (Tag VLAN)]、[静的ルートの追加 (Add Static Route)]のドロップダウンタブがあります。各タブを展開してそれぞれの情報を入力します。

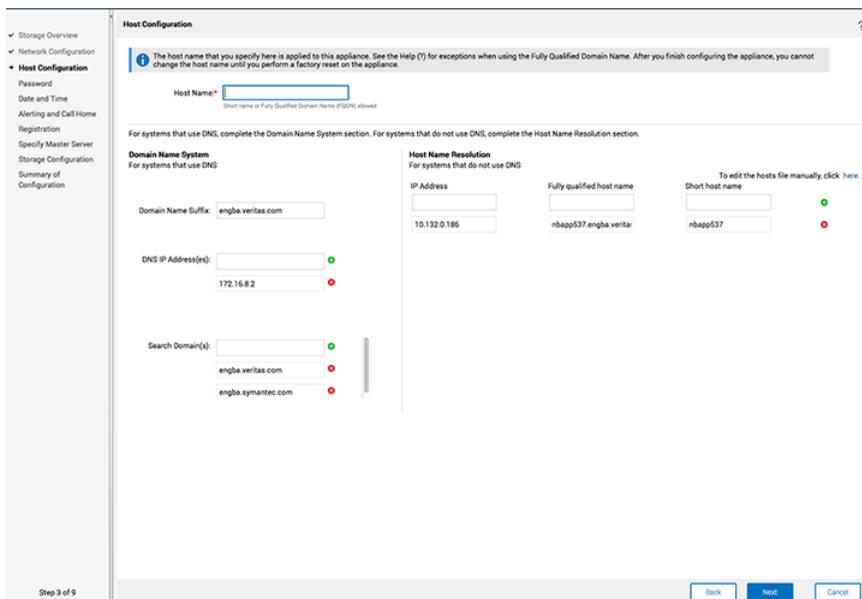
図 1-2 [ネットワーク構成 (Network Configuration)]ページ



ホストの構成 (Host Configuration)

このページでは、アプライアンスのホスト ID を入力します。アプライアンスのホスト名 (FQDN と省略名)、IP アドレス、ドメイン名のすべてが必須です。

図 1-3 [ホストの構成 (Host Configuration)] ページ



パスワードの変更 (Password change)

このページでは、アプライアンスサーバーのパスワードを変更します。初期構成を実行するときに、出荷時のデフォルトのパスワードを安全性の高いパスワードに変更することをお勧めします。

図 1-4 [パスワードの変更 (Password change)] ページ

Password Change

Please review the password policy before setting the new password:

- Passwords must contain at least eight characters.
- Passwords must contain at least one lower case letter (a-z) and one number (0-9).
- Dictionary words are considered weak passwords and are not accepted.
- The last seven passwords cannot be reused and the new password cannot be similar to previous passwords.

Click the help icon ? for more information.

! Password change is not mandatory but strongly recommended. Click Next, if you want the password to remain the same.

Old admin password:

New admin password:

Confirm new admin password:

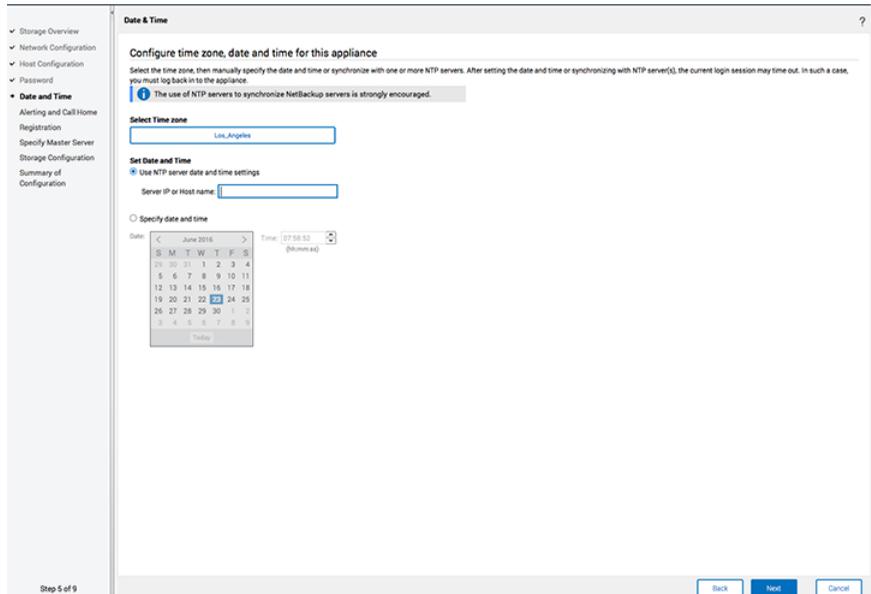
Step 4 of 9

Back Next Cancel

日付と時刻 (Date & Time)

このページでは、アプライアンスの設置場所の日付、時刻、およびタイムゾーンを設定します。

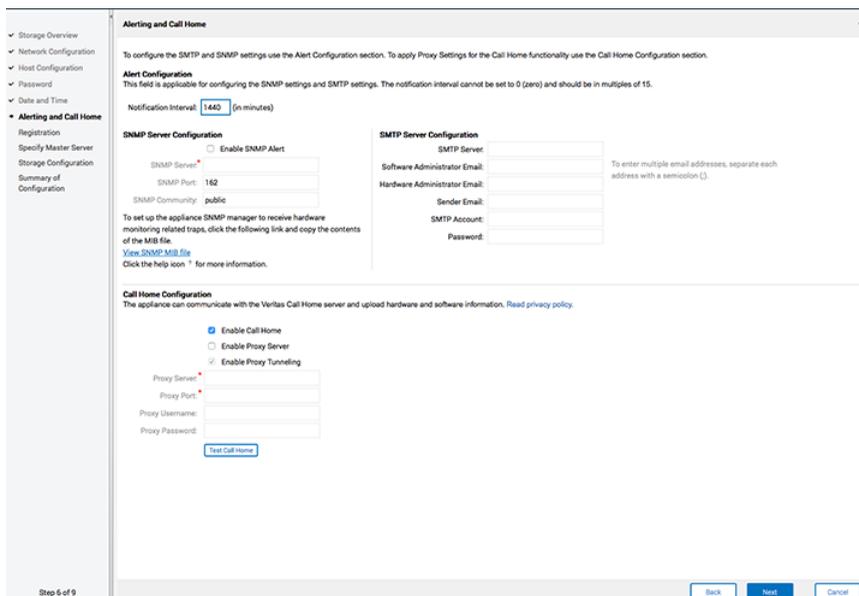
図 1-5 [日付と時刻 (Date & Time)]ページ



アラートと Call Home (Alerting and Call Home)

問題を報告するために、このページでシステムアラートや Call Home 機能を構成します。

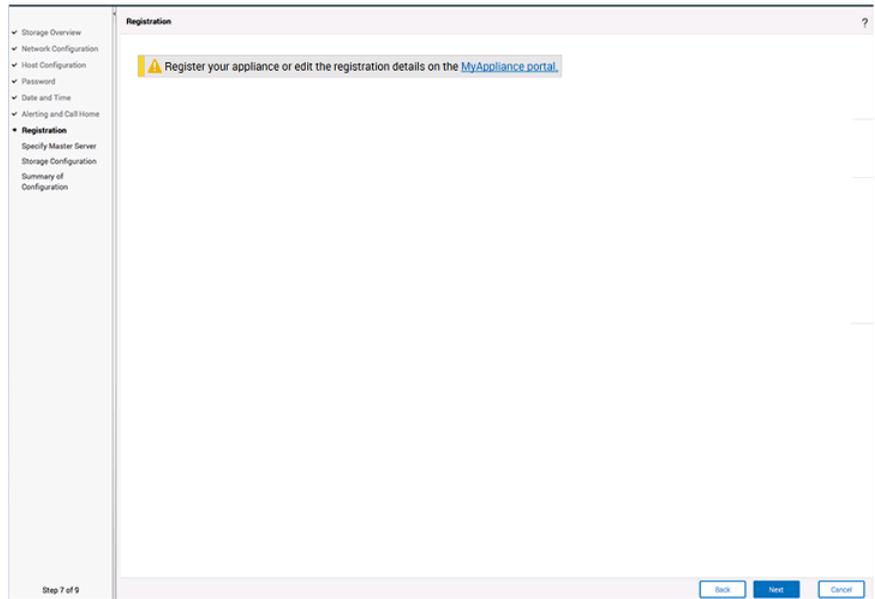
図 1-6 [アラートと Call Home (Alerting and Call Home)] ページ



登録

このページには、[MyAppliance ポータル](#)へのリンクが示されています。このポータルでアプライアンスを登録して、アプライアンスに関する製品の更新と他の重要な更新が確実に通知されるようにします。

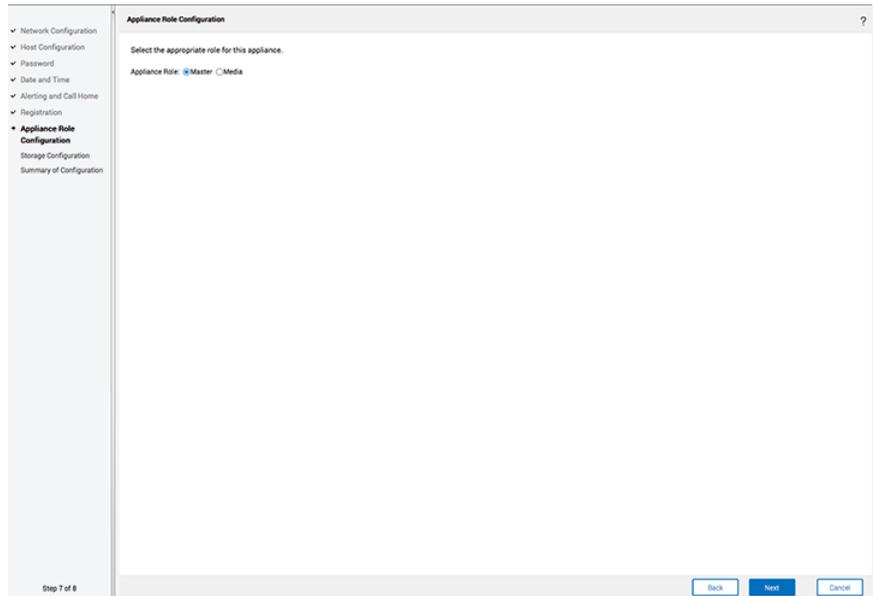
図 1-7 [登録 (Registration)] ページ



アプライアンスの役割の構成 (Appliance Role Configuration) - マスター (Master)

このページでは、アプライアンスの役割としてマスターサーバーまたはメディアサーバーのどちらかを選択します。[Master (マスター)]を選択した場合、これ以上の操作は必要ありません。[メディア (Media)]を選択するとページの内容が変わり、関連マスターサーバーを特定できます (図 1-9 を参照)。

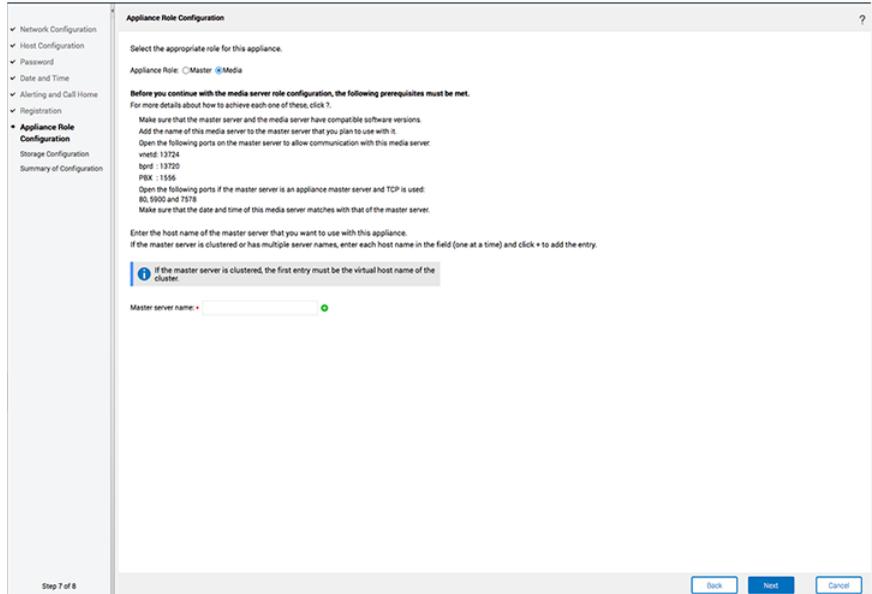
図 1-8 [アプライアンスの役割の構成 (Appliance Role Configuration)] - [マスター (Master)] ページ



[アプライアンスの役割の構成 (Appliance Role Configuration)] - [メディア (Media)]

[メディア (Media)]を選択すると、関連マスターサーバーの名前を入力するデータ入力フィールドと前提条件の説明が表示されます。

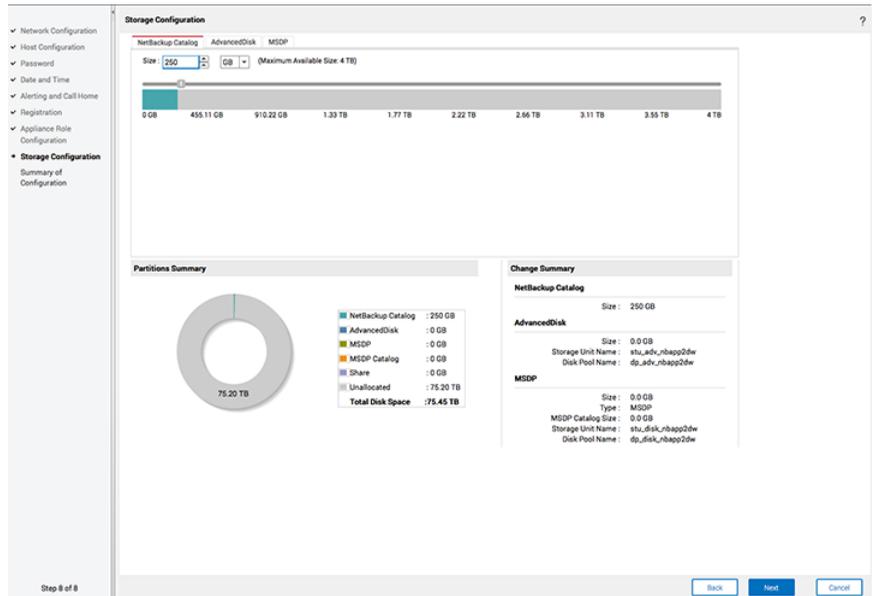
図 1-9 [アプライアンスの役割の構成 (Appliance Role Configuration)] - [メディア (Media)] ページ



[ストレージの構成 (Storage Configuration)] - [NetBackup カタログ (NetBackup Catalog)]

このページの[NetBackup カタログ (NetBackup Catalog)]タブでは、NetBackup カタログのサイズを設定します。このタブは、アプライアンスの役割に[マスター (Master)]を選択した場合にのみ表示されます。

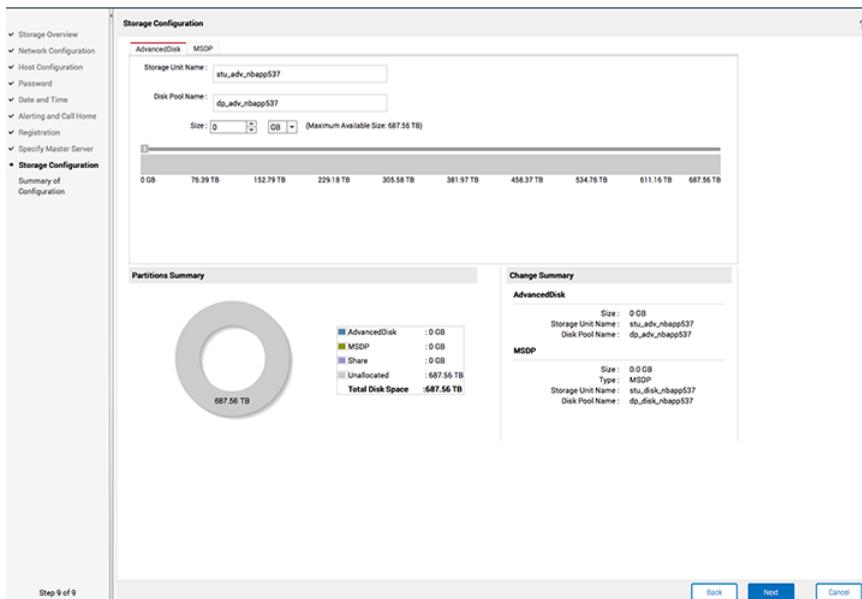
図 1-10 [ストレージの構成 (Storage Configuration)] ページ - [NetBackup カタログ (NetBackup Catalog)]



[ストレージの構成 (Storage Configuration)] - [AdvancedDisk]

このページの[AdvancedDisk]タブでは、AdvancedDisk パーティションにストレージ領域を割り当て、ストレージユニットおよびディスクプールに名前を付けます。

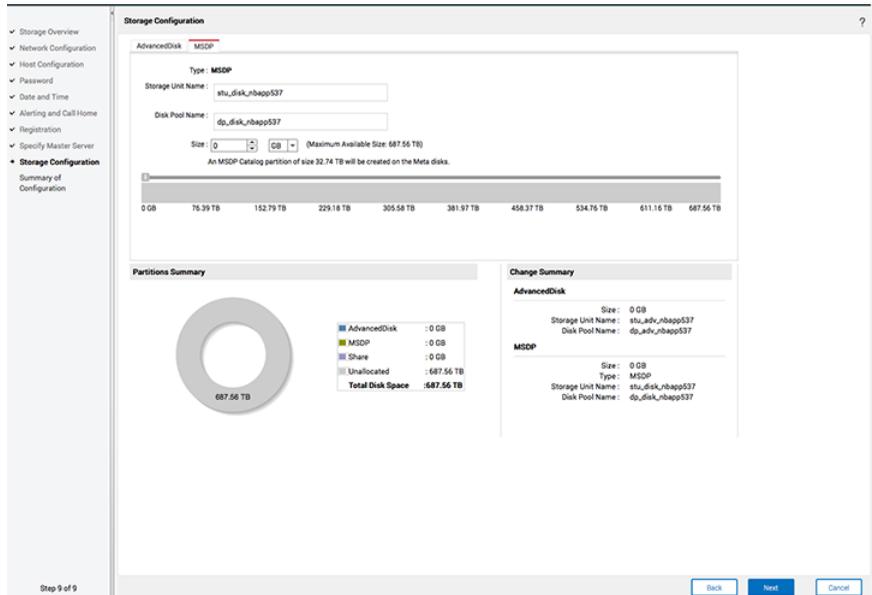
図 1-11 [ストレージの構成 (Storage Configuration)] ページ - [AdvancedDisk]



[ストレージの構成 (Storage Configuration)] - [MSDP]

このページの[MSDP]タブでは、メディアサーバー重複排除プールパーティションにストレージ領域を割り当て、ストレージユニットおよびディスクプールに名前を付けます。

図 1-12 [ストレージの構成 (Storage Configuration)] ページ - [MSDP]



NetBackup アプライアンスの初期構成チェックリストについて

初期構成チェックリストは、アプライアンスの初期構成および将来の再構成の計画に役立ちます。

このチェックリストは、NetBackup Appliance Web Consoleに表示される各初期構成ページのデータ入力フィールドを記述する一連の表から成っています。

新しいアプライアンスの場合、アプライアンスを構成する前にこのチェックリストを使って初期構成の設定を記録します。アプライアンスが出荷時設定にリセットまたは再イメージ処理されている場合は、アプライアンスをもう一度構成する必要があります。チェックリストに記録された設定は、時間を節約し、アプライアンスの接続をすばやく元に戻すために役立ちます。

チェックリストは次の場所にあります。

- NetBackup Appliance Web Console

NetBackup Appliance Web Consoleを使用して初めてアプライアンスにログインすると、[チェックリストをダウンロード (download checklist)]リンクが[ようこそ (Welcome)]ページに表示されます。リンクをクリックすると、チェックリストファイルが開きます。チェックリストには、任意のページのオンラインヘルプ (?) アイコンをクリックし、checklist を検索してもアクセスできます。

- オンライン (Online)
 このチェックリストの最新バージョンの PDF ファイルを取得するには、次のリンクを参照してください。
https://www.veritas.com/support/en_US/article.000100480

NetBackup Appliance の初期構成チェックリスト

このチェックリストはアプライアンスの初期構成の計画のために役立ちます。

『NetBackup Appliance の初期構成ガイド』の初期構成の手順と併せて、このチェックリストを使ってください。文書には、このチェックリストの複製も含まれます。

新しいアプライアンスで、アプライアンスの初期構成の設定を記録するために次の表を使います。アプライアンスが出荷時設定にリセットまたは再イメージ処理されている場合は、アプライアンスをもう一度構成する必要があります。チェックリストに記録された設定は、貴重な時間を節約し、アプライアンスの接続をすばやく元に戻すために役立ちます。

このチェックリストのハードコピーまたは印刷されたバージョンを使う場合は、記入済みのチェックリストを安全な場所に置くようにします。また、チェックリストの PDF バージョンを入手し、選択した場所にダウンロードして保存することもできます。このチェックリストの最新版にアクセスするには、次のリンクを参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000100480

IPMI ポートの構成

IPMI ポートの構成は初期構成とは異なります。アプライアンスへのリモートアクセスにこのポートを使用するには、まずポートをネットワークへの接続用に構成する必要があります。次の表を使って、必要なパラメータ設定を記録します。

表 1-4 IPMI ポートの構成

パラメータ	設定
IP アドレス	
ネットマスク	
ゲートウェイ IP アドレス	

アプライアンスの初期構成

次の表は、NetBackup Appliance Web Consoleの初期構成ページに表示されるフィールドを示します。これらの表を使って、設定を記録します。

表 1-5 ネットワーク構成 - ボンドの作成

フィールド	設定
ネットワークインターフェース (Network Interface)	
結合モード (Bond Mode)	
IP アドレス (IP Address)	
サブネットマスク (Subnet Mask)	

表 1-6 ネットワーク構成 - VLAN のタグ付け

フィールド	設定
インターフェースの選択	
説明 (上記のインターフェースの選択フィールドについて)	
VLAN Id	
IP アドレス (IPv4 または IPv6)	
サブネットマスク (Subnet Mask)	

表 1-7 ネットワーク構成 - 静的ルートの追加

フィールド	設定
宛先 IP (Destination IP)	
宛先のサブネットマスク (Destination Subnet Mask)	
ゲートウェイ (Gateway)	
ネットワークインターフェース (Network Interface)	

表 1-8 ホストの構成

フィールド	設定
ホスト名 (Host Name)	

フィールド	設定
ドメイン名システム (Domain Name System) (DNS) <ul style="list-style-type: none"> ■ ドメイン名のサフィックス (Domain Name Suffix) ■ DNS の IP アドレス (DNS IP Address) ■ 検索ドメイン (Search Domain(s)) 	DNS: <ul style="list-style-type: none"> ■ _____ ■ _____ ■ _____
ホスト名解決 (Host Name Resolution) (DNS なし) <ul style="list-style-type: none"> ■ IP アドレス (IP address) ■ 完全修飾ホスト名 (Fully qualified host name) ■ 短いホスト名 (Short host name) 	DNS なし: <ul style="list-style-type: none"> ■ _____ ■ _____ ■ _____

表 1-9 パスワードの変更

フィールド	設定
古い admin パスワード (Old admin password)	
新しい admin パスワード (New admin password)	
新しい admin パスワードの確認 (Confirm new admin password)	

表 1-10 日付と時刻の構成

フィールド	設定
タイムゾーン (Time zone)	
NTP サーバーの IP (NTP Server IP)	
日付と時刻 (Date and Time)	

表 1-11 警告の構成

フィールド	設定
通知の間隔 (Notification Interval) (15 分間隔)	
SNMP の警告を有効化 (Enable SNMP Alert)	

フィールド	設定
SNMP サーバー (SNMP server) ([SNMP アラートを有効化 (Enable SNMP Alert)]にチェックマークを付けた場合のみ必要)	
SNMP ポート (SNMP port)	
SNMP コミュニティ (SNMP community)	
SMTP サーバー (SMTP server)	
ソフトウェア管理者の電子メール (Software administrator email address)	
ハードウェア管理者の電子メール (Hardware administrator email address)	
送信者の電子メールアドレス (Sender email address)	
SMTP アカウント (SMTP account)	
パスワード (Password)	

表 1-12 コールホームの構成

フィールド	設定
コールホームを有効にする (Enable Call Home)	
プロキシサーバーを有効化 (Enable proxy server)	
プロキシのトンネリングを有効にする (Enable proxy tunneling)	
プロキシサーバー (Proxy server) ([プロキシサーバーを有効化 (Enable proxy server)]にチェックマークを付けた場合のみ必要)	
プロキシポート (Proxy port) ([プロキシサーバーを有効化 (Enable proxy server)]にチェックマークを付けた場合のみ必要)	
プロキシのユーザー名 (Proxy user name)	
プロキシのパスワード (Proxy password)	

表 1-13 ロール構成

フィールド	設定
マスターまたはメディア (Master or Media)	
マスターサーバー名 (Master server name) ([メディア (Media)]にチェックマークを付けた場合のみ必要)	

表 1-14 AdvancedDisk ストレージの構成

フィールド	設定
ストレージユニット名 (Storage Unit name)	
ディスクプール名 (Disk Pool Name)	
サイズ (Size)	

表 1-15 重複排除 (MSDP) ディスクの構成

フィールド	設定
ストレージユニット名 (Storage Unit name)	
ディスクプール名 (Disk Pool Name)	
サイズ (Size)	

最大伝送単位サイズの設定について

MTU プロパティは、イーサネットフレームの最大伝送単位のサイズを制御します。イーサネットの標準的な最大伝送単位サイズは 1500 バイトです (ヘッダーなしの場合)。サポート対象の環境では、MTU プロパティを 9,000 バイトを超えて設定できます。インターフェースにさらに大きなフレームサイズを設定することを、一般的に、ジャンボフレームと言います。ジャンボフレームにより、データがネットワーク経由で送信され、場合によってはスループットが向上して CPU 使用率が減ることがあるため、断片化を減らすことができます。ジャンボフレームを活用するには、イーサネットカード、ドライバ、スイッチのすべてにおいて、ジャンボフレームをサポートする必要があります。さらに、アプライアンスへのデータ転送に使われる各サーバーインターフェースを、ジャンボフレーム用に設定する必要があります。

インターフェースの MTU プロパティを 1500 バイトより大きな値に設定した場合、特定のインターフェースのアプライアンスに接続しているすべてのシステムで、最大伝送単位サイズを同一にすることが推奨されます。こうしたシステムには、NetBackup クライアントやリモートデスクトップが含まれますが、これらに限定されません。また、MTU プロパティを

設定する前に、ネットワークハードウェア、OS、ドライバのサポートをすべてのシステムで確認してください。

インターフェースの MTU プロパティは、NetBackup Appliance Shell Menu で SetProperty コマンドを使って設定できます。

『 NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』の SetProperty コマンドを参照してください。

初期構成の手順

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 52xx Appliance](#) の初期構成を [NetBackup Appliance Web Console](#) から実行する
- [NetBackup Appliance Shell Menu](#)からの [52xx マスターサーバーアプライアンスの初期構成の実行](#)
- [マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信](#)
- [NetBackup Appliance Shell Menu](#)からの [52xx メディアサーバーアプライアンスの初期構成の実行](#)
- [NetBackup 5240 CloudCatalyst Appliance](#) での初期構成の実行

NetBackup 52xx Appliance の初期構成を NetBackup Appliance Web Consoleから実行する

すべてのアプライアンスシステムコンポーネントを取り付け、接続し、電源を入れたら、サーバーの構成準備が完了します。

メディアサーバーとしてこのアプライアンスを構成する場合は、初期構成を開始する前にマスターサーバーで次のタスクを完了してください。次のリンクには、必要なタスクの実施方法が指示されています。

p.57 の「[マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信](#)」を参照してください。

- マスターサーバーとメディアサーバーが互換性のあるソフトウェアのバージョンであることを確認します。
- これを使用するマスターサーバーの `SERVERS` リストにメディアサーバーの名前を追加します。

NetBackup 52xx Appliance の初期構成を NetBackup Appliance Web Console から実行する

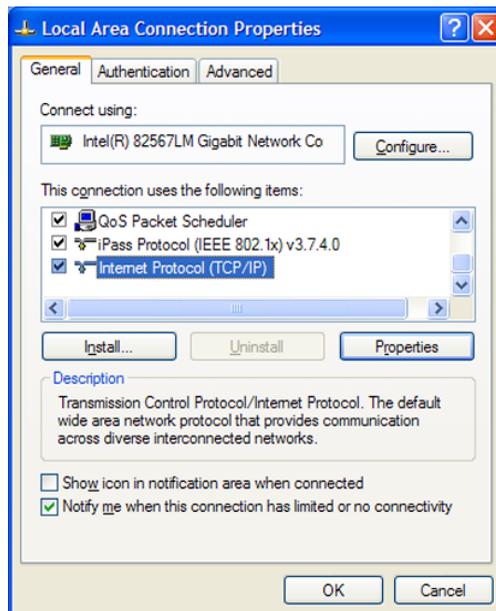
- マスターサーバーとこのメディアサーバー間にファイアウォールがある場合は、上記のリンク先の記述に従って、適切なポートを開いてください。
- このメディアサーバーの日時が、マスターサーバーの日時と一致していることを確認してください。

次の手順は、新しいまたは再イメージ処理済みのアプライアンスを NetBackup Appliance Web Console から構成する方法を示しています。

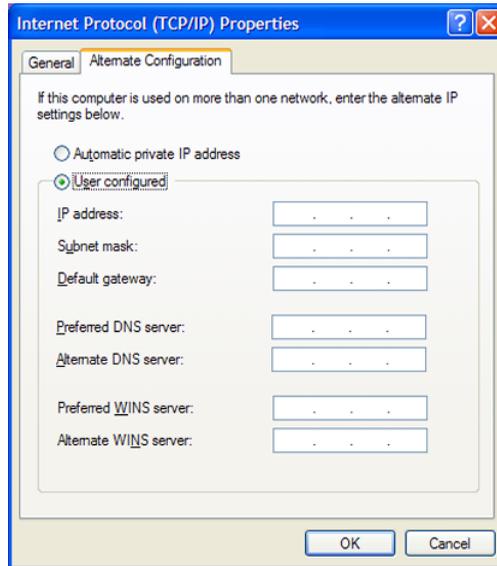
注意: アプライアンスはメンテナンスユーザーアカウントの既知のデフォルトパスワードが設定された状態で提供されます。このパスワードは、アプライアンスのメンテナンスモードに不正にアクセスされないように、初期構成の前または直後に変更してください。なお、アプライアンスのトラブルシューティングサービスが必要な場合に、ベリタステクニカルサポートにメンテナンスユーザーパスワードを知らせる必要があります。次に示す手順の手順 16 では、メンテナンスユーザーパスワードの変更方法を説明しています。

NetBackup 52xx Appliance の初期構成を NetBackup Appliance Web Console から実行するには

- 1 NIC1 アプライアンスポートに接続済みのノートパソコンで、[ローカルエリアの接続プロパティ (Local Area Connection Properties)] ダイアログボックスを開きます。
[全般 (General)] タブで、[インターネットプロトコル (TCP/IP) (Internet Protocol (TCP/IP))] を選択してハイライト表示し、[プロパティ (Properties)] をクリックします。



[代替の構成 (Alternate Configuration)] タブで、次のタスクを実行します。



- [ユーザー構成 (User Configured)] をクリックします。
 - [IP アドレス (IP address)] に、192.168.229.nnn と入力します。nnn は 2 ~ 254 (233 を除く) の任意の数字です。
 - [サブネットマスク (Subnet mask)] に、255.255.255.0 と入力します。
 - [OK] をクリックします。
- 2 アプライアンスに接続したノートパソコンで Web ブラウザを開いて次の URL にアクセスします。

<https://192.168.229.233>

メモ: NetBackup アプライアンスソフトウェアバージョン 2.6.0.4 から、NetBackup Appliance Web Console はデフォルトポート 443 の HTTPS 経由のみでアクセスできます。HTTP 経由のポート 80 は無効になっています。NetBackup アプライアンスのソフトウェアバージョン 2.6.1 に、この変更の例外があります。そのバージョンでは、NetBackup Appliance Web Console はデフォルトポート 80 の HTTPS のみを経由してアクセス可能です。

- 3 次のように、アプライアンスにログオンします。
- [ユーザー名 (User Name)] に admin を入力します。

- [パスワード (Password)] に P@ssw0rd を入力します。
- 4 [Appliance の設定へようこそ (Welcome to Appliance Setup)] ページで、初期構成を実行するために必要な情報の概要を確認します。
- [構成チェックリストのダウンロード (Download Configuration Checklist)]
初期構成の補助機能として、このリンクをクリックすると、構成設定のすべてを記録できるファイルが開きます。構成の実行時に使えるように、このファイルを印刷し、記入しておくことをお勧めします。その後、このファイルは、将来の参照用に安全な場所に保管してください。
 - [アプライアンスを設定 (Setup Appliance)]
構成チェックリストに記入した後、この項目をクリックして構成を開始します。
- 5 [ネットワーク構成 (Network Configuration)] ページには、特定のタスクを完了するための次のタスクバーが含まれ、ネットワーク接続を構成するために必要なデータ入力フィールドがあります。タスクバーを展開して、関連するネットワーク構成情報を入力します。
- [ボンドの作成 (Create Bond)] - 2つ以上のネットワークインターフェース間の結合を作成するのに使います。
 - VLAN のタグ付け (Tag VLAN) - NetBackup Appliance バージョン 2.6.0.3 から、このタスクバーを使って既存のネットワーク環境の VLAN を構成できます。
 - 静的ルートの追加 (Add Static Route) - ネットワークのルート構成を追加するのに使います。

メモ: これらの機能は、他の機能とは独立しているため、表示される順序で構成する必要はありません。

次のように、[ボンドの作成 (Create Bond)] の適切な情報を入力します。

[ボンドの作成 (Create Bond)] データ入力フィールド

- ネットワークインターフェース (Network Interface)
ドロップダウンボックスをクリックし、結合を作成するインターフェースかデバイス名を選択します。

- 結合モード (Bond Mode)
ドロップダウンボックスをクリックし、結合する NIC ポートに使う結合モードを選択します。結合により、複数のネットワークインターフェースを単一の論理「結合」インターフェースに集約できます。結合されたインターフェースの動作はモードによって異なります。デフォルト結合モードは [balance-alb] です。

ドロップダウンリストから利用可能な結合モードは以下のとおりです。

- balance-rr
- active-backup
- balance-xor
- broadcast
- 802.3ad
- balance-tlb
- balance-alb

いくつかの結合モードでは、スイッチまたはルーターでの追加構成が必要となります。結合モードを選択する際には、その点にも注意する必要があります。

結合モードについて詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

<http://www.kernel.org/doc/Documentation/networking/bonding.txt>

すべてのフィールドに適切なデータを入力した後に、[+] をクリックして選択したネットワークインターフェースを追加してすぐに組み込む必要があります。結合を構成するには、[結合モード (Bond Mode)] ドロップダウンボックスから複数のインターフェースを選択する必要があります。IPv6 アドレスには、[サブネットマスク (Subnet Mask)] として 64 を入力します。

- IP アドレス [IPv4 または IPv6] (IP Address [IPv4 or IPv6])
このアプライアンスで使う IPv4 または IPv6 アドレスを入力します。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。
- サブネットマスク (Subnet Mask)
このアプライアンスサーバーの IP アドレスを特定するネットワークアドレスを入力します。
- すべてのフィールドに適切なデータを入力した後に、[+] をクリックしてネットワーク構成設定を保存し、追加します。

ご使用の環境で必要な場合は、次のように適切な Tag VLAN 情報を入力します。

[VLAN のタグ付け (Tag VLAN)] データ入力フィールド

- インターフェースの選択
VLAN をタグ付けするネットワークインターフェースかデバイス名を選択します。
- 説明 (Description)
VLAN の説明を入力します。たとえば、財務、人事管理など。
- VLAN Id
VLAN の番号識別子を入力します。VLAN ID の範囲は 1 から 4094 の間です。たとえば、1、10 など。
- IP アドレス [IPv4 または IPv6] (IP Address [IPv4 or IPv6])
このアプライアンスで使う IPv4 または IPv6 アドレスを入力します。
- サブネットマスク (Subnet Mask)
IP アドレスに対応するサブネットマスク値を入力します。
- [追加 (Add)] をクリックして、タグ付けする VLAN の構成情報を既存のネットワーク環境に追加します。
タグ付けする追加の VLAN の情報を入力するには、[+] 記号をクリックして行を追加します。行を削除するには、[サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドの横にある [-] 記号をクリックします。

次のように、[静的ルートの追加 (Add Static Route)] の適切な情報を入力します。

[静的ルートの追加 (Add Static Route)] データ入力フィールド

- 宛先 IP (Destination IP)
宛先ネットワークのネットワーク IP アドレスを入力します。アドレスは IPv4 または IPv6 のいずれかになります。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。
p.11 の「[IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて](#)」を参照してください。
- 宛先のサブネットマスク (Destination Subnet Mask)
[宛先 IP (Destination IP)] のアドレスに対応するサブネット値を入力します。
初期構成では、変更できないデフォルト値がこのフィールドに含まれています。別のルートを構成するときは、適切な値を入力する必要があります。
- ゲートウェイ (Gateway)
別のネットワークへの入り口として機能するネットワークポイントのアドレスを入力します。アドレスは IPv4 または IPv6 のいずれかになります。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。
p.11 の「[IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて](#)」を参照してください。
- ネットワークインターフェース (Network Interface)
ドロップダウンボックスをクリックし、ネットワーク接続に使うイーサネット NIC ポートを選択します。
- すべてのフィールドに適切なデータを入力した後に [+] をクリックし、ルーティング構成の設定を保存して追加します。

+ をクリックして、入力したネットワーク構成設定を保存した後、ページの下の[次へ (Next)] をクリックして続けます。

6 [ホスト構成 (Host Configuration)] ページで、次のようにホストの解決情報を入力できます。

- [hosts ファイルを手動で編集するには、ここをクリック (To edit the hosts file manually, click here)]
IP アドレス、完全修飾ホスト名、短いホスト名を /etc/hosts ファイルに直接追加します。[ここ (here)] をクリックして /etc/hosts ファイルを開いて編集します。

メモ: このアプライアンスで Active Directory (AD) 認証を構成することを計画している場合は、ホスト名は 15 文字以下にする必要があります。そうしないと、AD 構成が失敗する可能性があります。

- 以下のフィールドにアプライアンスのホスト名と関連ホスト解決情報を入力します。

ホスト名 (Host Name)

メモ: このアプライアンスで Active Directory (AD) 認証を構成することを計画している場合は、ホスト名は 15 文字以下にする必要があります。そうしないと、AD 構成が失敗する可能性があります。

このアプライアンスの短いホスト名または完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。

一部の例外を除き、ホスト名はアプライアンス構成全体に適用されます。短縮名は次の場所に常に表示されます。

- NetBackup Appliance Shell Menu プロンプト
- 重複排除プールカタログのバックアップポリシー
- デフォルトのストレージユニットおよびディスクプール名

このアプライアンスが出荷時の設定にリセットされていて、以前のバックアップイメージのいずれかをインポートする場合は、アプライアンスのホスト名が次のルールのいずれかを満たしている必要があります。

- ホスト名は出荷時の設定へのリセット前に使われるものとまったく同じである必要があります。
- FQDN にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた短い名前を含んでいる必要があります。たとえば、「myhost」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい FQDN として「myhost.domainname.com」を使います。
- 短いホスト名にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた FQDN から得られる名前にする必要があります。たとえば、「myhost.domainname.com」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい短いホスト名として「myhost」を使います。

メモ: ホスト名は初期構成セッションの間のみ設定することができます。初期構成が正常に完了した後、アプライアンスで出荷時の設定にリセットすると初期構成を再入力できます。詳しくは、『NetBackup appliance 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup 52xx Appliance の初期構成を NetBackup Appliance Web Console から実行する

DNS システムの場合 以下の[ドメイン名システム (Domain Name System)]情報を入力します。

- **ドメイン名のサフィックス (Domain Name Suffix)**
DNS サーバーのサフィックス名を入力します。[ホスト名 (Host Name)]フィールドに FQDN を入力した場合、このフィールドは自動的に入力されます。
 - **DNS の IP アドレス (DNS IP Address(es))**
DNS サーバーの IP アドレスを入力した後、[+]アイコンをクリックしてアドレスを追加します。必要なアドレスの追加数に応じて繰り返します。
アドレスは IPv4 または IPv6 のいずれかになります。IPv6 アドレスの場合、グローバルスコープまたは一意のローカルアドレスのみを入力できます。
p.11 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。
アドレスを削除するには、データ入力フィールド下のリストからそのアドレスを選択し、[x]アイコンをクリックします。
 - **検索ドメイン (Search Domain(s))**
ご使用の環境で必要な場合、検索ドメイン名を入力し、+ アイコンをクリックして、その名前を追加します。必要な検索ドメインの追加数に応じて繰り返します。
検索ドメインを削除するには、データ入力フィールド下のリストからその検索ドメインを選択し、[x]アイコンをクリックします。
- 必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。

DNS を使わないシステムの場合 以下の[ホスト名解決 (Host name resolution)]の情報を入力します。

- **IP**
アプライアンスの IP アドレスを入力します。
アドレスは IPv4 または IPv6 のいずれかになります。IPv6 アドレスの場合、グローバルスコープまたは一意のローカルアドレスのみを入力できます。
p.11 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。
- **完全修飾ホスト名 (Fully qualified host name)**
アプライアンスの完全修飾ホスト名 (FQHN) を入力します。
- **短いホスト名 (Short host name)**
アプライアンスの短い名前を入力します。
2 つ以上の名前を入力するには、名前間にスペースなしでカンマを追加します。

すべてのフィールドに入力した後、[+]アイコンをクリックします。追加したエントリがフィールドの下に表示されます。

必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。

- 7 [パスワードの変更 (Password change)] ページで、以下のようにデフォルトのパスワードを置き換える新しいパスワードを入力します。

メモ: アプライアンスの初期構成の続行には、デフォルトパスワードの変更は必須ではありません。ただし、環境のセキュリティを高めるために、管理者パスワードを定期的に変更することをお勧めします。現在のパスワードの記録は安全な場所に保管するように徹底してください。

古い admin パスワード (Old admin password) 出荷時のデフォルトパスワード (P@ssw0rd) を入力します。

新しい admin パスワード (New admin password) 新しいパスワードを入力します。
有効なパスワードには、以下を含める必要があります。

- 8 文字以上
- 少なくとも 1 つの小文字
- 少なくとも 1 つの数字 (0 から 9)

大文字と特殊文字を含めることはできますが、必須ではありません。

次に、パスワードの制限について説明します。

- 辞書にある言葉は弱いパスワードと見なされて受け入れられません。
- 過去 7 回分のパスワードは再利用できません。以前のパスワードに類似する新しいパスワードも使えません。

新しいパスワードの確認 (Confirm new password) 確認のために新しいパスワードを再入力します。

必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)] をクリックします。

- 8 [日時 (Date & Time)] ページで、このアプライアンスの適切な日付と時刻を入力します。

情報を手動で入力する以外に、NTP (Network Time Protocol) サーバーを使ってネットワーク上でアプライアンスの日時を同期することもできます。

タイムゾーン (Time zone) アプライアンスにタイムゾーンを割り当てるには、[タイムゾーン (Time zone)] ドロップダウンボックスをクリックし、該当する地域、国、タイムゾーンを選択します。

- 日付と時刻の指定 (Specify date & time)
- 日付と時刻を手動で入力するには、このオプションを選択し、次の情報を入力します。
- 最初のフィールドに、mm/dd/yyyy の形式で日付を入力します。または、カレンダーのアイコンをクリックし、適切な年月日を選択します。
 - 2 番目のフィールドに、hh:mm:ss の形式で時刻を入力します。24 時間形式 (00:00:00 から 23:59:59) で入力する必要があります。

NTP

アプライアンスを NTP (Network Time Protocol) サーバーと同期するには、このオプションを選択し、[NTP サーバーの IP アドレス (NTP Server IP Address)]を入力します。

必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。

- 9 [アラートと Call Home (Alerting and Call Home)] ページで、アプライアンスがベリタスコールホームサーバーに電子メールでアラートを送信したり、状態レポートをアップロードするための情報を入力します。

警告の場合は、次のように、[警告の構成 (Alert Configuration)] の適切な情報を入力します。

[警告の構成 (Alert Configuration)] データ入力フィールド

警告をアップロードするようにアプライアンスを構成するには、以下の情報を入力します。

- 通知の間隔 (Notification interval) (分)
アプライアンスがベリタス Call Home サーバーにアラートをアップロードする間隔を入力します。15 分単位で入力する必要があります。
- SNMP の警告を有効化 (Enable SNMP Alert)
このチェックボックスにチェックマークを付け、以下の SNMP 情報を入力します。
 - SNMP サーバー (SNMP server)
このコンピュータを定義する SNMP サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。
IPv4 または IPv6 の IP アドレスを入力できます。IPv6 の場合は、グローバルスコープと一意のローカルアドレスのみを入力できます。
 - SNMP ポート (SNMP port)
このアプライアンスとの通信を許可する SNMP サーバーのポート番号を入力します。
 - SNMP コミュニティ (SNMP community)
警告やトラップが送信されるコミュニティ名を入力します。
たとえば、[SNMP サーバー (SNMP server)] に入力した情報と同じ情報を入力できます。また、会社名の他、admin_group、public、private などの名前も入力できます。何も入力しない場合には、デフォルト値は Public です。
 - SNMP の MIB ファイルを表示 (View SNMP MIB file)
関連トラップを監視するハードウェアを受信するようにアプライアンスの SNMP マネージャを設定するには、このリンクをクリックして MIB ファイルの内容を表示します。次に、ファイルを別の場所にコピーし、その内容を使って SNMP マネージャを更新します。
アプライアンスは SNMPv2c 形式のトラップのみを受け入れることができます。
- SMTP サーバー (SMTP server)
このコンピュータを定義する SMTP サーバーのホスト名またはその IP アドレスを入力します。
- ソフトウェア管理者の電子メール (Software administrator email address)
ソフトウェア管理者が通知を受信するための電子メールアドレスを入力します。
- ハードウェア管理者の電子メール (Hardware administrator email address)
ハードウェア管理者が通知を受信するための電子メールアドレスを入力します。
- 送信者の電子メールアドレス (Sender email address)
受信者がレポートのソースを識別できるようにアプライアンスの電子メールアドレスを入力します。
- SMTP アカウント (SMTP account)
SMTP サーバーのアカウント名を入力します。
- パスワード (Password)
セキュリティを高めるには、SMTP サーバーのパスワードを入力します。

プロキシサーバーまたはベリタスコールホームサーバーに電子メールのレポートを送信するように、このサーバーを構成できます。

次のプロキシサーバーがサポートされます。

- Squid
- Apache
- TMG

メモ: プロキシ構成の NTLM 認証もサポートされます。

Call Home の場合は、次のように、[コールホームの構成 (Call Home Configuration)]の適切な情報を入力します。

[Call Home の構成 (Call Home Configuration)]データ入力フィールド

アプライアンスがプロキシサーバーまたはベリタスコールホームサーバーに電子メールレポートを送信するように構成するには、以下の情報を入力します。

- コールホームを有効にする (Enable Call Home)
アプライアンスがベリタス Call Home サーバーに電子メールレポートを送信するには、このチェックボックスにチェックマークを付けます。
- プロキシサーバーを有効化 (Enable proxy server)
電子メール通知にプロキシサーバーを使う場合は、このチェックボックスにチェックマークを付け、以下のプロキシ情報を入力します。
- プロキシのトンネリングを有効にする (Enable proxy Tunneling)
プロキシトンネリングを有効にするには、このチェックボックスにチェックマークを付け、以下のプロキシ情報を入力します。
 - プロキシサーバー (Proxy server)
サーバーの IP アドレスを入力します。
IPv4 または IPv6 の IP アドレスを入力できます。IPv6 の場合は、グローバルスコープと一意のローカルアドレスのみを入力できます。
 - プロキシポート (Proxy port)
このアプライアンスとの通信を許可するプロキシサーバーのポート番号を入力します。
 - プロキシのユーザー名 (Proxy username)
プロキシサーバーのユーザー名を入力します。
 - プロキシのパスワード (Proxy password)
プロキシサーバーのパスワードを入力します。
- Call Home のテスト (Test Call Home)
必要な情報をすべて入力した後、[Call Home のテスト (Test Call Home)]をクリックして、ベリタスサーバーとの通信を確認することをお勧めします。
テストが失敗した場合は、すべての名前、IP アドレス、ポート番号が正しく入力されていることを確認してください。テストが再度失敗した場合は、ベリタスのテクニカルサポートに問い合わせてください。

必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。

- 10 [登録 (Registration)] ページで、**MyAppliance** ポータル (<https://my.appliance.veritas.com>) へのリンクをクリックし、アプライアンスを登録してと連絡先情報を入力します。
- 11 次のように、このアプライアンスサーバーのロールを設定します。

オプションまたはデータ入力 説明 フィールド

アプライアンスロール
(Appliance Role)

- **マスター(Master)**
この役割を選択するとき、新たな操作は不要です。[次へ (Next)] をクリックして続行します。
- **メディア(Media)**
この役割を選択する場合には、このメディアサーバーとともに使うマスターサーバーの次の構成を実行するか検証するまでは、構成を続行しないでください。次のリンクには、必要なタスクの実施方法が指示されています。
p.57 の「**マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信**」を参照してください。
 - マスターサーバーとメディアサーバーが互換性のあるソフトウェアのバージョンであることを確認します。
 - これを使用するマスターサーバーの `SERVERS` リストにメディアサーバーの名前を追加します。
 - マスターサーバーの次のポートを開いてこのメディアサーバーと通信できるようにします。
vnetd: 13724
bprd: 13720
PBX: 1556
 - マスターサーバーがアプライアンスのマスターサーバーで、TCP を使う場合は次のポートを開きます。
443、5900、7578。
 - このメディアサーバーの日時がマスターサーバーの日時と一致していることを確認します。

オプションまたはデータ入力 説明 フィールド

マスターサーバー名 (Master server name) [メディアサーバー (Media Server)]の役割を選択する場合は、このメディアサーバーと通信する必要があるマスターサーバーの名前を次のように特定します。

- 名前と IP アドレスが 1 つだけのマスターサーバーの場合
 マスターサーバーのホスト名または IP アドレスを入力し、[追加 (Add)]をクリックします。
- クラスタ化されたマスターサーバー、または複数の名前と IP アドレスを持つマスターサーバーの場合
 フィールドに各ホスト名または IP アドレスを(一度に 1 つ)入力し、[追加 (Add)]をクリックします。

メモ: マスターサーバーがクラスタ化されている場合は、最初のエントリはクラスタの仮想ホスト名である必要があります。

メモ: マスターサーバーのホスト名が FQDN である場合、ベリタスは FQDN を使ってメディアサーバーのマスターサーバーを指定することを推奨します。

必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。[証明書の検証 (Certificate Verification)]ダイアログボックスが表示されたら、次を参照します。

CA 証明書の詳細を確認し、[配備 (Deploy)]をクリックして、CA 証明書をメディアサーバーに配備します。

必要に応じてトークンを入力し、[配備 (Deploy)]をクリックして、ホスト ID ベースの証明書をメディアサーバーに配備します。

セキュリティ証明書については、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup のセキュリティ証明書」の章を参照してください。

- 12** [ストレージの構成 (Storage Configuration)] ページで、使う予定のストレージユニットとディスクプールの名前を作成し、ディスクパーティションのサイズを構成します。

AdvancedDisk 用、重複排除 (MSDP) 用、またはその両方用のストレージのパーティションを構成できます。

メモ: MSDP ストレージを構成することを選択した場合は、MSDP カタログを保護するためのポリシーが自動的に作成されます。このポリシーを見直し、アプライアンスの構成後に有効にすることを推奨します。

NetBackup カタログ (NetBackup Catalog)

このタブでは、マスターサーバーの NetBackup カタログパーティションのサイズを設定できます。このタブは、マスターサーバーとして構成されているアプライアンスでのみ表示されます。

パーティションのサイズを設定するには、正確な数値を[サイズ (Size)]フィールドに入力するか、灰色のスライドバーのボックスをクリックアンドドラッグして任意のサイズに合わせます。サイズは、利用可能な最大容量によって、GB 単位または TB 単位で設定できます。

AdvancedDisk

以下の情報を入力します。

- ストレージユニット名 (Storage Unit Name)
このストレージユニットを識別するために使う名前を入力します。英字、数字、特殊文字を使うことができます。名前には最大 256 文字を含めることができます。
メモ: 名前はマイナス (-) 文字から始めることはできません。また名前にスペースを使うこともできません。
- ディスクプール名 (Disk Pool Name)
このディスクプールを識別するために使う名前を入力します。英字、数字、特殊文字を使うことができます。名前には最大 256 文字を含めることができます。
メモ: 名前はマイナス (-) 文字から始めることはできません。また名前にスペースを使うこともできません。
- サイズ (Size)
[サイズ (Size)]フィールドに正確な数を入力してこのパーティションのサイズを設定するか、または灰色のスライドバーのボックスをクリックして目的のサイズにドラッグします。サイズは、利用可能な最大容量によって、GB 単位または TB 単位で設定できます。

重複排除ディスク

(Deduplication Disk (MSDP))

以下の情報を入力します。

- ストレージユニット名 (Storage Unit Name)

このストレージユニットを識別するために使う名前を入力します。英字、数字、特殊文字を使うことができます。名前には最大 256 文字を含めることができます。

メモ: 名前はマイナス (-) 文字から始めることはできません。また名前にスペースを使うこともできません。

- ディスクプール名 (Disk Pool Name)

このディスクプールを識別するために使う名前を入力します。英字、数字、特殊文字を使うことができます。名前には最大 256 文字を含めることができます。

メモ: 名前はマイナス (-) 文字から始めることはできません。また名前にスペースを使うこともできません。

- サイズ (Size)

このパーティションのサイズを設定するには、正確な数値を[サイズ (Size)]フィールドに入力するか、灰色のスライドバーのボックスをクリックアンドドラッグして任意のサイズに合わせます。

サイズは、利用可能な最大容量によって、GB 単位または TB 単位で設定できます。

必要な情報をすべて入力した後、[次へ (Next)]をクリックします。

- 13** [構成の進捗状況 (Configuration Progress)] ページで、アプライアンスによって構成ページからのすべてのデータ入力適用される処理の進捗状況を監視できます。

構成が完了するまでの時間は、環境の複雑さによって決まります。

- 14** [構成の概略 (Summary of Configuration)] ページで、構成の結果を確認します。設定が正常に完了したことを確かめるために結果を確認します。

このページでは、発生した可能性があるエラーの特定も行います。結果にエラーが表示されている場合は、初期構成を再実行する必要がある場合もあります。

- 15** 設定が正常に完了した後、NetBackup のサービスが開始するまで約 5 分お待ちください。その後で、完全修飾ホスト名を使ってアプライアンスに再接続し、ログインする必要があります。

- 16** 次のように、デフォルトの Maintenance ユーザーパスワードを変更します。

- NetBackup Appliance Shell Menu にログオンし、Main_Menu > Support > Maintenance コマンドを入力します。
- パスワードプロンプトで、デフォルトのメンテナンスユーザーパスワード (P@ssw0rd) を入力します。

- メンテナンスシェルプロンプトで `passwd` コマンドを入力してパスワードを変更します。
- `Exit` と入力すると NetBackup Appliance Shell Menu に戻ります。

Support > Maintenance コマンドの使用については、『NetBackup アプライアンスコマンドリファレンスガイド』を参照してください。

17 NIC1 アプライアンスポートからラップトップを切断します。

メモ: ネットワークに 192.168.x.x という IP アドレス範囲が使われている場合は、次のトピックで重要な情報を参照してください。

p.86 の「[NetBackup アプライアンスでの NIC1 \(eth0\) ポートの使用について](#)」を参照してください。

18 すべてのアプライアンスが構成され稼働したら、バックアップするクライアントソフトウェアをコンピュータにインストールする準備が完了します。

p.87 の「[NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード](#)」を参照してください。

p.91 の「[CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

NetBackup Appliance Shell Menuからの 52xx マスターサーバーアプライアンスの初期構成の実行

すべてのアプライアンスシステムコンポーネントを取り付け、接続し、電源を入れたら、サーバーの構成準備が完了します。

次の手順は、NetBackup Appliance Shell Menuから新しい 52xx マスターサーバーのアプライアンスを構成する方法を示しています。

警告: NetBackup Appliance は、同じサブネットに属する 2 つの IP アドレスの構成をサポートしません。アプライアンスは Linux のオペレーティングシステムで実行され、この種類のネットワークは現在の制限事項です。作成する各結合は、異なるサブネットに属する IP アドレスを使う必要があります。

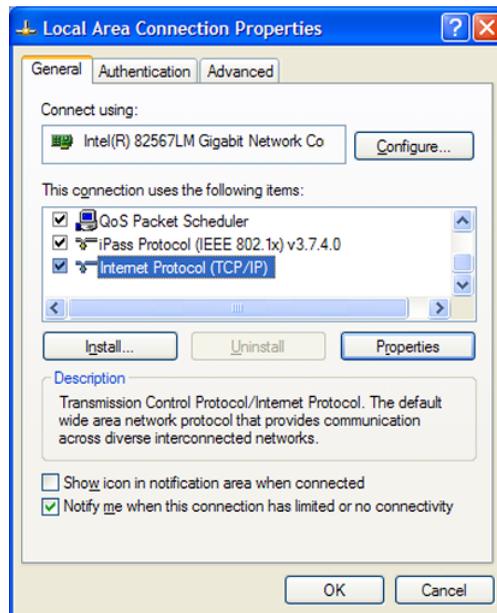
メモ: アプライアンスのホスト名がその IP アドレスに解決される場合は、IP アドレスを削除できません。

注意: アプライアンスはメンテナンスユーザーアカウントの既知のデフォルトパスワードが設定された状態で提供されます。このパスワードは、アプライアンスのメンテナンスモードに不正にアクセスされないように、初期構成の前または直後に変更してください。なお、アプライアンスのトラブルシューティングサービスが必要な場合に、ベリタステクニカルサポートにメンテナンスユーザーパスワードを知らせる必要があります。次に示す手順の手順 14 では、メンテナンスユーザーパスワードの変更方法を説明しています。

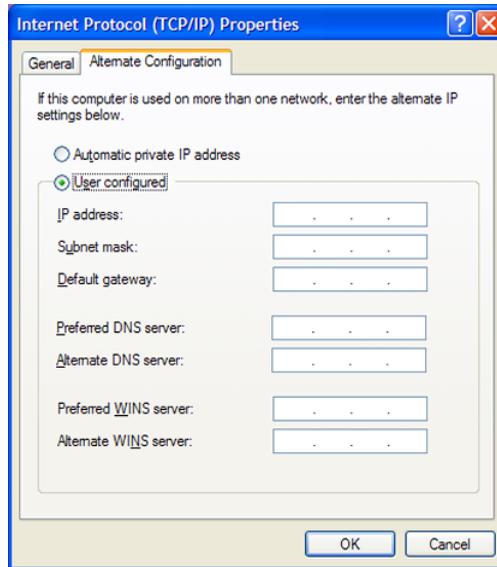
NetBackup Appliance Shell Menuから 52xx マスターサーバーアプライアンスの初期構成を実行するには

- 1 NIC1 アプライアンスポートに接続済みのノートパソコンで、[ローカルエリアの接続プロパティ (Local Area Connection Properties)]ダイアログボックスを開きます。

[全般 (General)]タブで、[インターネットプロトコル (TCP/IP) (Internet Protocol (TCP/IP))]**]を選択してハイライト表示し、[プロパティ (Properties)]をクリックします。**



[代替の構成 (Alternate Configuration)]タブで、次のタスクを実行します。



- [ユーザー構成 (User Configured)]をクリックします。
 - [IP アドレス (IP address)]に、192.168.229.nnn と入力します。nnn は 2 ～ 254 (233 を除く)の任意の数字です。
 - [サブネットマスク (Subnet mask)]に、255.255.255.0 と入力します。
 - [OK]をクリックします。
- 2 アプライアンスに接続されているノートパソコンで、SSH セッションを 192.168.229.233 に開き、アプライアンスにログオンします。
- ログオンは admin、デフォルトのパスワードは P@ssw0rd です。
- ログオンした後、ようこそメッセージがシェルメニューに表示され、Main_Menu ビューにプロンプトが表示されます。

- 3 Main_Menu > Networkビューで次のコマンドを入力して、アプライアンスが接続する単一ネットワークの IP アドレスを設定します。

```
Configure IPAddressNetmaskGatewayIPAddress [InterfaceNames]
```

ここで、**IPAddress** は新しい IP アドレス、**Netmask** はネットマスク、**Gateway/IPAddress** はインターフェースのデフォルトゲートウェイです。
[InterfaceNames] オプションは省略可能です。

IP Address や **Gateway IP Address** には、IPv4 または IPv6 アドレスを指定できます。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。

ただし、同じコマンド内で IPv4 と IPv6 アドレスの両方は使わないでください。たとえば、Configure 9ffe::9 255.255.255.0 1.1.1.1 は使えません。Configure 9ffe::46 64 9ffe::49 eth1 を使ってください

p.11 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。

複数のネットワークを構成する場合には、追加する各ネットワークの IP アドレスを最初に構成する必要があります。次に、追加した各ネットワークのゲートウェイアドレスを構成します。必ずデフォルトゲートウェイアドレスを最初に追加するようにします。以下の 2 つのコマンドを使います。

各ネットワークの IP アドレスの構成

ネットワークインターフェースに対して IPv4 または IPv6 アドレスのどちらを構成するかに応じて、以下のコマンドのいずれかを使います。

ネットワークインターフェースの IPv4 アドレスを構成するには

```
IPv4 IPAddressNetmask [InterfaceName]
```

ここで、**IPAddress** は新しい IP アドレス、**Netmask** はネットマスクです。[InterfaceName] は省略可能です。追加する IP アドレスごとにこのコマンドを繰り返します。

ネットワークインターフェースの IPv6 アドレスを構成するには

```
IPv6 <IP Address> <Prefix> [InterfaceNames]
```

ここで、**IPAddress** は IPv6 アドレス、**Prefix** はプレフィックス長です。[InterfaceName] は省略可能です。

追加した各ネットワークのゲートウェイアドレスの構成

```
Gateway Add GatewayIPAddress
[TargetNetworkIPAddress] [Netmask]
[InterfaceName]
```

ここで、**GatewayIPAddress** はインターフェースのゲートウェイです。**TargetNetworkIPAddress**、**Netmask**、**InterfaceName** は省略可能です。このコマンドを繰り返して、すべての宛先ネットワークにゲートウェイを追加します。

Gateway IP Address や **TargetNetworkIPAddress** には、IPv4 または IPv6 アドレスを指定できます。

ただし、同じコマンド内で IPv4 と IPv6 アドレスの両方は使用しないでください。たとえば、Gateway Add 9ffe::3 255.255.255.0 eth1 は使えません。Gateway Add 9ffe::3 6ffe:: 64 eth1 を使ってください。

- 4 Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、アプライアンスの DNS ドメイン名を設定します。

メモ: DNS を使わない場合は、ステップ 7 に進んでください。

DNS Domain Name

ここで、**Name** はアプライアンスの新しいドメイン名です。

- 5 [Main_Menu] > [ネットワーク (Network)] ビューで、次のコマンドを使って DNS ネームサーバーをアプライアンス構成に追加します。

```
DNS Add NameServer IPAddress
```

ここで、**IPAddress** は DNS サーバーの IP アドレスです。

アドレスは IPv4 または IPv6 のいずれかになります。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。

p.11 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。

複数の IP アドレスを追加するには、スペースを空けずに各アドレスをカンマで区切ります。

- 6 [Main_Menu] > [ネットワーク (Network)] ビューで次のコマンドを使って、DNS 検索ドメインをアプライアンス構成に追加し、異なるドメインにあるホスト名をアプライアンスが解決できるようにします。

```
DNS Add SearchDomain SearchDomain
```

ここで、**SearchDomain** は検索用に追加する対象ドメインです。

- 7 このステップは省略可能です。ここでは、アプライアンスの `hosts` ファイルに、他のホストの IP アドレスを追加できます。

`Main_Menu > Network` ビューで次のコマンドを使って、ホストエントリをアプライアンスの `hosts` ファイルに追加します。

```
Hosts Add IPAddressFQHNShortName
```

ここで、`IPAddress` は IPv4 または IPv6 アドレス、`FQHN` は完全修飾ホスト名、`ShortName` は短いホスト名です。

p.11 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。

- 8 `[Main_Menu] > [ネットワーク (Network)]` ビューで次のコマンドを使って、アプライアンスのホスト名を設定します。

メモ: このアプライアンスで Active Directory (AD) 認証を構成することを計画している場合は、ホスト名は 15 文字以下にする必要があります。そうしないと、AD 構成が失敗する可能性があります。

```
Hostname Set Name
```

`Name` は、このアプライアンスの短いホスト名または完全修飾ドメイン名 (FQDN) です。

一部の例外を除き、ホスト名はアプライアンス構成全体に適用されます。短縮名は次の場所に常に表示されます。

- NetBackup Appliance Shell Menuプロンプト
- 重複排除プールカタログのバックアップポリシー
- デフォルトのストレージユニットおよびディスクプール名

このアプライアンスが出荷時の設定にリセットされていて、以前のバックアップイメージのいずれかをインポートする場合は、アプライアンスのホスト名が次の規則のいずれかを満たしている必要があります。

- ホスト名は出荷時の設定へのリセット前に使われるものとまったく同じである必要があります。
- FQDN にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた短い名前を含んでいる必要があります。たとえば、「myhost」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい FQDN として「myhost.domainname.com」を使います。
- 短いホスト名にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた FQDN から得られる名前にする必要があります。たとえば、「myhost.domainname.com」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい短いホスト名として「myhost」を使います。

メモ: ホスト名は初期構成セッションの間のみ設定することができます。初期構成が正常に完了した後、アプライアンスで出荷時の設定にリセットすると初期構成を再入力できます。詳しくは、『NetBackup appliance 管理者ガイド』を参照してください。

このステップにより、NetBackup は新しいホスト名で動作するように再構成されます。この処理は、完了するまでにしばらく時間がかかることがあります。

Hostname set コマンドが動作するためには、少なくとも 1 つの IPv4 アドレスが必要です。たとえば、特定のホストのホスト名を v46 に設定するとします。そのためには、まず、その特定のホストが少なくとも 1 つの IPv4 アドレスを持つことを確認した後、次のコマンドを実行します。

```
Main_Menu > Network > Hostname set v46
```

- 9 前述のネットワーク構成設定に加え、Main_Menu > Network ビューを使って、アプライアンスネットワークの初期設定時に結合を作成して VLAN をタグ付けすることもできます。

- 2 つ以上のネットワークインターフェース間に結合を作成するには、Network > LinkAggregation Create コマンドを使います。
- 物理インターフェースまたは結合インターフェースにタグ付けするには、Network > VLAN Tag コマンドを使います。

LinkAggregation と VLAN コマンドオプションについて詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

- 10 Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、このアプライアンスのタイムゾーン、日付および時間を設定します。

- 次のコマンドを入力して、タイムゾーンを設定します。

```
TimeZone Set
```

表示されたリストから該当するタイムゾーンを選択します。

- 次のコマンドを入力して、日付と時刻を設定します。

```
Date Set MonthDayHHMMSSYear
```

Month は月の名前です。

Day は 0 から 31 までの日付です。

HHMMSS は 24 時間形式の時、分、秒です。フィールドは、HH:MM:SS のようにセミコロンで区切ります。

Year は、1970 から 2037 までの暦年です。

デフォルト名は、AdvancedDisk の場合は `stu_adv_<hostname>`、MSDP の場合は `stu_disk_<hostname>` です。デフォルト名を保持するには、Enter を押します。

ストレージのプロンプトが次の順序で表示されます。

```
NetBackup Catalog volume size in GB [default size]:
AdvancedDisk storage pool size in GB/TB [default size]:
AdvancedDisk diskpool name:
AdvancedDisk storage unit name:
MSDP storage pool size in GB/TB [default size]:
MSDP diskpool name:
MSDP storage unit name:
```

ストレージパーティションの構成後、ストレージの構成の概略が次のプロンプトとともに表示されます。

```
Do you want to edit the storage configuration? [yes, no]
```

変更を実行する場合は **yes**、現在の構成を保持する場合は **no** と入力します。

14 次のように、メンテナンスユーザーパスワードを変更します。

- Main_Menu > Support > Maintenance コマンドを入力します。
- パスワードプロンプトで、デフォルトのメンテナンスユーザーパスワード(`P@ssw0rd`)を入力します。
- メンテナンスシェルプロンプトで `passwd` コマンドを入力してパスワードを変更します。
- Exit と入力すると NetBackup Appliance Shell Menu に戻ります。

Support > Maintenance コマンドの使用について詳しくは、『NetBackup アプライアンスコマンドリファレンスガイド』を参照してください。

15 NIC1 アプライアンスポートからラップトップを切斷します。

メモ: ネットワークに 192.168.x.x という IP アドレス範囲が使われている場合は、次のトピックで重要な情報を参照してください。

p.86 の「[NetBackup アプライアンスでの NIC1 \(eth0\) ポートの使用について](#)」を参照してください。

16 すべてのアプライアンスが構成され稼働したら、バックアップするクライアントソフトウェアをコンピュータにインストールする準備が完了します。

p.87 の「[NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード](#)」を参照してください。

p.91 の「[CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信

メディアサーバーの役割について新しいアプライアンスを構成する前に、まず一緒に使う計画のマスターサーバーの構成を更新する必要があります。マスターサーバーと新しいメディアサーバー間の通信を確保するには、新しいメディアサーバーホスト名をマスターサーバー上の[追加サーバーリスト (Additional Servers List)]に追加する必要があります。

高可用性構成の場合、設定手順に使用するノードのホスト名を追加する必要があります。

次の手順は、マスターサーバーを構成して新しいアプライアンスのメディアサーバーと通信する方法を示しています。

マスターサーバーを構成して新しいメディアサーバーと通信する方法

- 1 アプライアンスをメディアサーバーの役割用に構成する前に、次のようにソフトウェアバージョンにマスターサーバーとの互換性があることを確認します。
 - マスターサーバーが **NetBackup Appliance** の場合
 - マスターサーバーが従来の (非アプライアンス) **NetBackup** マスターサーバーの場合
- 2 マスターサーバーに管理者としてログインし、次のようにメディアサーバー名を追加します。

アプライアンスのマスターサーバー NetBackup Appliance Web Consoleで次の操作を実行します。

- [管理 (Manage)]>[追加サーバー (Additional Servers)]>[追加 (Add)]をクリックします。
- [アプライアンスのホスト名 (Appliance Hostname)]フィールドに、追加するアプライアンスのメディアサーバーの完全修飾ホスト名 (FQHN) を入力します。
- [追加 (Add)]をクリックします。
アプライアンスに複数のホスト名がある場合はすべての名前を追加します。

NetBackup Appliance Shell Menuで次の操作を実行します。

- Main_Menu > Settings ビューで、次のコマンドを実行します。
Settings > NetBackup AdditionalServers
Add media-server
*media-server*は、まだ構成していないアプライアンスのメディアサーバーの完全修飾ホスト名 (FQHN) です。
アプライアンスに複数のホスト名がある場合はすべての名前を追加します。

従来の NetBackup マスターサーバー

- 管理者として NetBackup 管理コンソールにログオンします。
- コンソールのメインウィンドウの左ペインで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]>[ホストプロパティ (Host Properties)]>[マスターサーバー (Master Server)]をクリックします。
- 右ペインで、マスターサーバーのホスト名をクリックします。
- [ホストプロパティ (Host Properties)]ウィンドウの左ペインで、[サーバー (Servers)]をクリックします。
- 右ペインの[追加サーバー (Additional Servers)]セクションで、[追加 (Add)]をクリックしてアプライアンスのホスト名を入力します。アプライアンスのホスト名が最上部の[追加サーバー (Additional Servers)]セクションに表示されます。
アプライアンスに複数のホスト名がある場合はすべての名前を追加します。
- [OK]をクリックして[マスターサーバープロパティ (Master Server Properties)]ウィンドウを閉じます。

3 マスターサーバーとメディアサーバーの間にファイアウォールがある場合、マスターサーバーの次のポートを開いてメディアサーバーとの通信を許可します。

メモ: ポート設定を変更するには管理者としてログインしている必要があります。

- vnetd: 13724
- bprd: 13720
- PBX: 1556
- マスターサーバーが TCP を利用する NetBackup Appliance の場合、次のポートを開きます。
443、5900、7578。

- 4 メディアサーバーの日時とマスターサーバーの日時が一致していることを確認します。NTP サーバーを使うことも、時間を手動することもできます。

p.31 の「[NetBackup 52xx Appliance の初期構成を NetBackup Appliance Web Consoleから実行する](#)」を参照してください。

p.59 の「[NetBackup Appliance Shell Menuからの 52xx メディアサーバーアプライアンスの初期構成の実行](#)」を参照してください。

NetBackup Appliance Shell Menuからの 52xx メディアサーバーアプライアンスの初期構成の実行

すべてのアプライアンスシステムコンポーネントを取り付け、接続し、電源を入れたら、サーバーの構成準備が完了します。

メディアサーバーとしてこのアプライアンスを構成する場合は、初期構成を開始する前にマスターサーバーで次のタスクを完了してください。次のリンクには、必要なタスクの実施方法が指示されています。

p.57 の「[マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信](#)」を参照してください。

- マスターサーバーとメディアサーバーが互換性のあるソフトウェアのバージョンであることを確認します。
- これを使用するマスターサーバーの SERVERS リストにメディアサーバーの名前を追加します。
- マスターサーバーとこのメディアサーバー間にファイアウォールがある場合は、上記のリンク先の記述に従って、適切なポートを開いてください。
- このメディアサーバーの日時が、マスターサーバーの日時と一致していることを確認してください。

次の手順は、NetBackup Appliance Shell Menuから新しい 52xx メディアサーバーのアプライアンスを構成する方法を示しています。

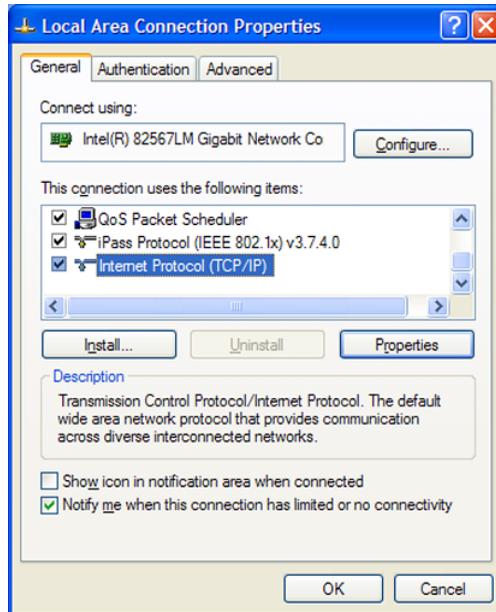
警告: NetBackup アプライアンスは、同じサブネットに属する 2 つの IP アドレスの構成をサポートしません。アプライアンスは Linux のオペレーティングシステムで実行され、この種類のネットワークは現在の制限事項です。作成する各結合は、異なるサブネットに属する IP アドレスを使う必要があります。

メモ: アプライアンスのホスト名がその IP アドレスに解決される場合は、IP アドレスを削除できません。

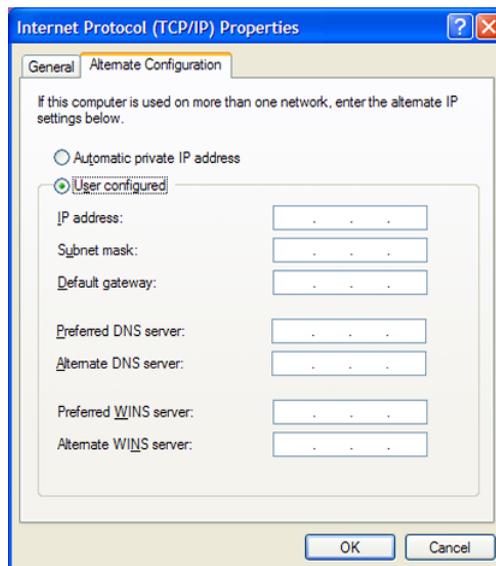
注意: アプライアンスはメンテナンスユーザーアカウントの既知のデフォルトパスワードが設定された状態で提供されます。このパスワードは、アプライアンスのメンテナンスモードに不正にアクセスされないように、初期構成の前または直後に変更してください。なお、アプライアンスのトラブルシューティングサービスが必要な場合に、ベリタステクニカルサポートにメンテナンスユーザーパスワードを知らせる必要があります。次に示す手順の手順 14 では、メンテナンスユーザーパスワードの変更方法を説明しています。

NetBackup Appliance Shell Menuから 52xx メディアサーバーアプライアンスの初期構成を実行するには

- 1 NIC1 アプライアンスポートに接続済みのノートパソコンで、[ローカルエリアの接続プロパティ (Local Area Connection Properties)]ダイアログボックスを開きます。
[全般 (General)]タブで、[インターネットプロトコル (TCP/IP) (Internet Protocol (TCP/IP))]を選択してハイライト表示し、[プロパティ (Properties)]をクリックします。



[代替の構成 (Alternate Configuration)]タブで、次のタスクを実行します。



- [ユーザー構成 (User Configured)]をクリックします。

NetBackup Appliance Shell Menuからの 52xx メディアサーバーアプライアンスの初期構成の実行

- [IP アドレス (IP address)]に、192.168.229.nnn と入力します。nnn は 2 ～ 254 (233 を除く)の任意の数字です。
 - [サブネットマスク (Subnet mask)]に、255.255.255.0 と入力します。
 - [OK]をクリックします。
- 2 アプライアンスに接続されているノートパソコンで、SSH セッションを 192.168.229.233 に開き、アプライアンスにログオンします。

ログオンは admin、デフォルトのパスワードは P@ssw0rd です。

ログオンした後、ようこそメッセージがシェルメニューに表示され、Main_Menuビューにプロンプトが表示されます。

- 3 Main_Menu > Networkビューで次のコマンドを入力して、アプライアンスが接続する単一ネットワークの IP アドレスを設定します。

```
Configure IPAddressNetmaskGatewayIPAddress [InterfaceNames]
```

ここで、**IPAddress** は新しい IP アドレス、**Netmask** はネットマスク、**Gateway/IPAddress** はインターフェースのデフォルトゲートウェイです。
[InterfaceNames] オプションは省略可能です。

IP Address や **Gateway IP Address** には、IPv4 または IPv6 アドレスを指定できます。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。

ただし、同じコマンド内で IPv4 と IPv6 アドレスの両方は使用しないでください。たとえば、Configure 9ffe::9 255.255.255.0 1.1.1.1 は使えません。Configure 9ffe::46 64 9ffe::49 eth1 を使ってください。

p.11 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。

複数のネットワークを構成する場合には、追加する各ネットワークの IP アドレスを最初に構成する必要があります。次に、追加した各ネットワークのゲートウェイアドレスを構成します。必ずデフォルトゲートウェイアドレスを最初に追加する必要があります。以下の 2 つのコマンドを使います。

各ネットワークの IP アドレスの構成

ネットワークインターフェースに対して IPv4 または IPv6 アドレスのどちらを構成するかに応じて、以下のコマンドのいずれかを使います。

ネットワークインターフェースの IPv4 アドレスを構成するには

```
IPv4 IPAddressNetmask [InterfaceName]
```

ここで、**IPAddress** は新しい IP アドレス、**Netmask** はネットマスクです。[InterfaceName] は省略可能です。追加する IP アドレスごとにこのコマンドを繰り返します。

ネットワークインターフェースの IPv6 アドレスを構成するには

```
IPv6 <IP Address> <Prefix> [InterfaceNames]
```

ここで、**IPAddress** は IPv6 アドレス、**Prefix** はプレフィックス長です。[InterfaceName] は省略可能です。

追加した各ネットワークのゲートウェイアドレスの構成

```
Gateway Add GatewayIPAddress
[TargetNetworkIPAddress] [Netmask]
[InterfaceName]
```

ここで、**GatewayIPAddress** はインターフェースのゲートウェイです。**TargetNetworkIPAddress**、**Netmask**、**InterfaceName** は省略可能です。このコマンドを繰り返して、すべての宛先ネットワークにゲートウェイを追加します。

Gateway IP Address や **TargetNetworkIPAddress** には、IPv4 または IPv6 アドレスを指定できます。

ただし、同じコマンド内で IPv4 と IPv6 アドレスの両方は使わないでください。たとえば、Gateway Add 9ffe::3 255.255.255.0 eth1 は使えません。Gateway Add 9ffe::3 6ffe:: 64 eth1 を使ってください。

- 4 Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、アプライアンスの DNS ドメイン名を設定します。

メモ: DNS を使わない場合は、ステップ 7 に進んでください。

```
DNS Domain Name
```

ここで、**Name** はアプライアンスの新しいドメイン名です。

- 5 [Main_Menu] > [ネットワーク (Network)] ビューで、次のコマンドを使って DNS ネームサーバーをアプライアンス構成に追加します。

```
DNS Add NameServer IPAddress
```

ここで、**IPAddress** は DNS サーバーの IP アドレスです。

アドレスは IPv4 または IPv6 のいずれかになります。グローバルスコープ IPv6 アドレスと一意のローカル IPv6 アドレスのみが許可されます。

p.11 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。

複数の IP アドレスを追加するには、スペースを空けずに各アドレスをカンマで区切ります。

- 6 [Main_Menu] > [ネットワーク (Network)] ビューで次のコマンドを使って、DNS 検索ドメインをアプライアンス構成に追加し、異なるドメインにあるホスト名をアプライアンスが解決できるようにします。

```
DNS Add SearchDomain SearchDomain
```

ここで、**SearchDomain** は検索用に追加する対象ドメインです。

- 7 このステップは省略可能です。ここでは、アプライアンスの `hosts` ファイルに、他のホストの IP アドレスを追加できます。

`Main_Menu > Network` ビューで次のコマンドを使って、ホストエントリをアプライアンスの `hosts` ファイルに追加します。

```
Hosts Add IPAddressFQHNShortName
```

ここで、`IPAddress` は IPv4 または IPv6 アドレス、`FQHN` は完全修飾ホスト名、`ShortName` は短いホスト名です。

p.11 の「IPv4-IPv6 ベースのネットワークサポートについて」を参照してください。

- 8 `[Main_Menu] > [ネットワーク (Network)]` ビューで次のコマンドを使って、アプライアンスのホスト名を設定します。

メモ: このアプライアンスで Active Directory (AD) 認証を構成することを計画している場合は、ホスト名は 15 文字以下にする必要があります。そうしないと、AD 構成が失敗する可能性があります。

```
Hostname Set Name
```

`Name` は、このアプライアンスの短いホスト名または完全修飾ドメイン名 (FQDN) です。

一部の例外を除き、ホスト名はアプライアンス構成全体に適用されます。短縮名は次の場所に常に表示されます。

- NetBackup Appliance Shell Menuプロンプト
- 重複排除プールカタログのバックアップポリシー
- デフォルトのストレージユニットおよびディスクプール名

このアプライアンスが出荷時の設定にリセットされていて、以前のバックアップイメージのいずれかをインポートする場合は、アプライアンスのホスト名が次の規則のいずれかを満たしている必要があります。

- ホスト名は出荷時の設定へのリセット前に使われるものとまったく同じである必要があります。
- FQDN にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた短い名前を含んでいる必要があります。たとえば、「myhost」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい FQDN として「myhost.domainname.com」を使います。
- 短いホスト名にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた FQDN から得られる名前にする必要があります。たとえば、「myhost.domainname.com」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい短いホスト名として「myhost」を使います。

メモ: ホスト名は初期構成セッションの間のみ設定することができます。初期構成が正常に完了した後、アプライアンスで出荷時の設定にリセットすると初期構成を再入力できます。詳しくは、『NetBackup appliance 管理者ガイド』を参照してください。

このステップにより、NetBackup は新しいホスト名で動作するように再構成されます。この処理は、完了するまでにしばらく時間がかかることがあります。

Hostname set コマンドが動作するためには、少なくとも 1 つの IPv4 アドレスが必要です。たとえば、特定のホストのホスト名を v46 に設定するとします。そのためには、まず、その特定のホストが少なくとも 1 つの IPv4 アドレスを持つことを確認した後、次のコマンドを実行します。

```
Main_Menu > Network > Hostname set v46
```

- 9** 前述のネットワーク構成設定に加え、Main_Menu > ビューを使って、アプライアンスネットワークの初期設定時に結合を作成して VLAN をタグ付けすることもできます。

- 2 つ以上のネットワークインターフェース間に結合を作成するには、Network > LinkAggregation Create コマンドを使います。
- 物理インターフェースまたは結合インターフェースにタグ付けするには、Network > VLAN Tag コマンドを使います。

LinkAggregation と VLAN コマンドオプションについて詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

- 10** Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、このアプライアンスのタイムゾーン、日付および時間を設定します。

- 次のコマンドを入力して、タイムゾーンを設定します。

```
TimeZone Set
```

表示されたリストから該当するタイムゾーンを選択します。

- 次のコマンドを入力して、日付と時刻を設定します。

```
Date Set MonthDayHHMMSSYear
```

Month は月の名前です。

Day は 0 から 31 までの日付です。

HHMMSS は 24 時間形式の時、分、秒です。フィールドは、HH:MM:SS のようにセミコロンで区切ります。

Year は、1970 から 2037 までの暦年です。

- 11 [Main_Menu] > [設定 (Settings)] > [アラート (Alerts)] > [電子メール (Email)]
ビューで次のコマンドを使って、アプライアンスの失敗アラートの SMTP サーバー名と電子メールアドレスを入力します。

SMTP サーバー名の入力

```
Email SMTP Add Server [Account]  
[Password]
```

Server 変数は、電子メールを送信するために使われるターゲット SMTP サーバーのホスト名です。**[Account]** オプションでは、使われたアカウントの名前または SMTP サーバーの認証を識別します。**[Password]** オプションは、SMTP サーバーの認証のためのパスワードです。

電子メールアドレスの入力

```
Email Software Add Addresses
```

ここで、**Addresses** はユーザーの電子メールアドレスです。複数の電子メールを定義するには、セミコロンで電子メールを区切ります。

12 アプライアンスの役割として、メディアサーバーを設定します。

メモ: メディアサーバーとしてこのアプライアンスを設定する前に、このアプライアンス名を、一緒に使うマスターサーバーに追加してください。

[Main_Menu] > [アプライアンス (Appliance)]ビューから、次のコマンドを実行します。

`Media MasterServer`

MasterServer がスタンドアロンのマスターサーバー、マルチホームマスターサーバー、またはクラスタ化されたマスターサーバーのいずれかである場合。それぞれのシナリオについて以下で説明します。

スタンドアロンのマスターサーバー このシナリオは、マスターサーバーホスト名が1つの場合です。この名前は、アプライアンスがネットワーク上でマスターサーバーを認識できていれば、完全修飾名である必要はありません。コマンドの表示例を次に示します。

`Media MasterServerName`

マルチホームマスターサーバー このシナリオでは、マスターサーバーに複数のホスト名が関連付けられています。ホスト名の区切り文字としてカンマを使ってください。コマンドの表示例を次に示します。

`Media MasterNet1Name,MasterNet2Name`

クラスタ化されたマスターサーバー このシナリオでは、マスターサーバーはクラスタにあります。ペリタスは、クラスタ名、クラスタのアクティブノード、クラスタのパッシブノードの順でリストにすることをお勧めします。このリストでは、カンマを使ってノード名を区切ります。コマンドの表示例を次に示します。

`Media`

`MasterClusterName,ActiveNodeName,PassiveNodeName`

マルチホームクラスタ化されたマスターサーバー このシナリオでは、マスターサーバーはクラスタにあり、関連付けられている複数のホスト名があります。ペリタスは、クラスタ名、クラスタのアクティブノード、クラスタのパッシブノードの順でリストにすることをお勧めします。このリストでは、カンマを使ってノード名を区切ります。コマンドの表示例を次に示します。

`Media MasterClusterName,ActiveNodeName,`

`PassiveNodeName,MasterNet1Name,MasterNet2Name`

アプライアンスの役割を設定するときに、今後問題が起こらないようにするため、ペリタスは関連付けられているすべてのマスターサーバー名を設定することをお勧めします。

CA 証明書の詳細が表示されたら、詳細を確認して `yes` と入力し、次のメッセージに応答します。

```
>> Do you trust the CA certificate? [yes, no] yes
```

ホストIDベースの証明書の配備が必要な場合はトークンを入力します。次のプロンプトを参照してください。

```
>> Enter token:
```

セキュリティ証明書について詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup のセキュリティ証明書」の章を参照してください。

メモ: マスターサーバーのホスト名が FQDN の場合は、FQDN を使ってメディアサーバーのマスターサーバーを指定することをお勧めします。

13 役割の構成を設定すると、AdvancedDiskと重複排除 (MSDP) のパーティションについてディスクストレージのプロンプトが表示されます。

ストレージパーティションを構成するには、次を実行する必要があります。

- ストレージプールのサイズを GB または TB 単位で入力します。
パーティションについてストレージプールのサイズの構成をスキップするには、サイズを求められたときに `0` を入力します。ストレージプールを現在のサイズに保持するには、`Enter` を押します。
- ディスクプール名を入力します。
デフォルト名は、AdvancedDisk の場合は `dp_adv_<hostname>`、重複排除の場合は `dp_disk_<hostname>` です。デフォルト名を保持するには、`Enter` を押します。
- ストレージプール名を入力します。
デフォルト名は、AdvancedDisk の場合は `stu_adv_<hostname>`、重複排除の場合は `stu_disk_<hostname>` です。デフォルト名を保持するには、`Enter` を押します。

ストレージのプロンプトが次の順序で表示されます。

```
AdvancedDisk storage pool size in GB/TB [default size]:
AdvancedDisk diskpool name:
AdvancedDisk storage unit name:
MSDP storage pool size in GB/TB [default size]:
MSDP diskpool name:
MSDP storage unit name:
```

ストレージパーティションの構成後、ストレージの構成の概略が次のプロンプトとともに表示されます。

Do you want to edit the storage configuration? [yes, no]

変更を実行する場合は **yes**、現在の構成を保持する場合は **no** と入力します。

14 次のように、デフォルトの Maintenance ユーザーパスワードを変更します。

- Main_Menu > Support > Maintenance コマンドを入力します。
- パスワードプロンプトで、デフォルトのメンテナンスユーザーパスワード(P@ssw0rd)を入力します。
- メンテナンスシェルプロンプトで passwd コマンドを入力してパスワードを変更します。
- Exit と入力すると NetBackup Appliance Shell Menu に戻ります。

Support > Maintenance コマンドの使用について詳しくは、『NetBackup アプライアンスコマンドリファレンスガイド』を参照してください。

15 NIC1 アプライアンスポートからラップトップを切斷します。

メモ: ネットワークに 192.168.x.x という IP アドレス範囲が使われている場合は、次のトピックで重要な情報を参照してください。

p.86 の「NetBackup アプライアンスでの NIC1 (eth0) ポートの使用について」を参照してください。

16 すべてのアプライアンスが構成され稼働したら、バックアップするクライアントソフトウェアをコンピュータにインストールする準備が完了します。

p.87 の「NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード」を参照してください。

p.91 の「CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール」を参照してください。

NetBackup 5240 CloudCatalyst Appliance での初期構成の実行

NetBackup 5240 CloudCatalyst Appliance を構成する前に、次の情報を確認します。

- 次のテクニカルノート調べてクラウドプロバイダがサポートされていることを確認し、プロバイダの互換性に必要な更新がある場合はアプライアンスにインストールします。
https://www.veritas.com/content/support/en_US/doc/58500769-127471507-0/95640454-127471507
- NetBackup 5240 CloudCatalyst Appliance でサポートされる単一のクラウドストレージバケットのサイズは、最大で 1 ペタバイトまでです。

- NetBackup 5240 Appliance が CloudCatalyst 向けに構成されている場合、接続されたストレージシェルフはサポートされません。アプライアンスの内部ストレージは、すべて MSDP キャッシュ領域として割り当てられます。
- NetBackup 5240 CloudCatalyst Appliance は NetBackup Appliance Web Console をサポートしません。アプライアンスの構成後は、NetBackup Appliance Web Console は無効になります。
- NetBackup CloudCatalyst は IPv6 をサポートしません。アプライアンスを構成する前に、アプライアンスをサポートするために IPv4 ネットワークが設定されていることを確認します。

すべてのアプライアンスシステムコンポーネントを取り付け、接続し、電源を入れたら、サーバーの構成準備が完了します。

初期構成を開始する前に、マスターサーバーで次のタスクを完了する必要があります。次のリンクには、必要なタスクの実施方法が指示されています。

p.57 の「マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信」を参照してください。

- マスターサーバーとメディアサーバーが互換性のあるソフトウェアのバージョンであることを確認します。
- これを使用するマスターサーバーの `SERVERS` リストにメディアサーバーの名前を追加します。
- マスターサーバーとこのメディアサーバー間にファイアウォールがある場合は、上記のリンク先の記述に従って、適切なポートを開いてください。
- このメディアサーバーの日時が、マスターサーバーの日時と一致していることを確認してください。

警告: NetBackup アプライアンスは、同じサブネットに属する 2 つの IP アドレスの構成をサポートしません。アプライアンスは Linux のオペレーティングシステムで実行され、この種類のネットワークは現在の制限事項です。作成する各結合は、異なるサブネットに属する IP アドレスを使う必要があります。

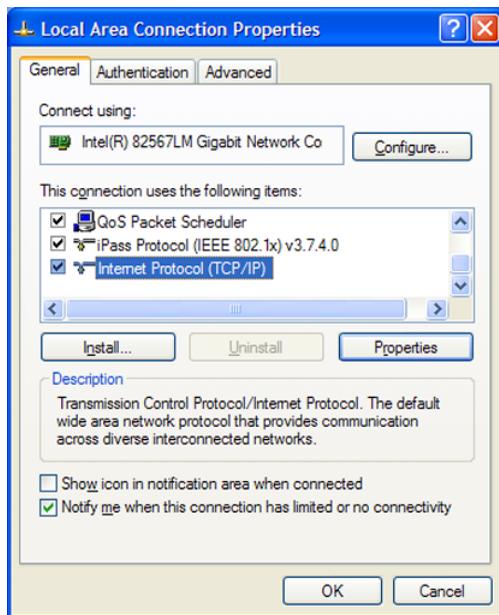
メモ: アプライアンスのホスト名がその IP アドレスに解決される場合は、IP アドレスを削除できません。

注意: アプライアンスはメンテナンスユーザーアカウントの既知のデフォルトパスワードが設定された状態で提供されます。このパスワードは、アプライアンスのメンテナンスモードに不正にアクセスされないように、初期構成の前または直後に変更してください。なお、アプライアンスのトラブルシューティングサービスが必要な場合に、ベリタステクニカルサポートにメンテナンスユーザーパスワードを知らせる必要があります。次に示す手順の手順 19 では、メンテナンスユーザーパスワードの変更方法を説明しています。

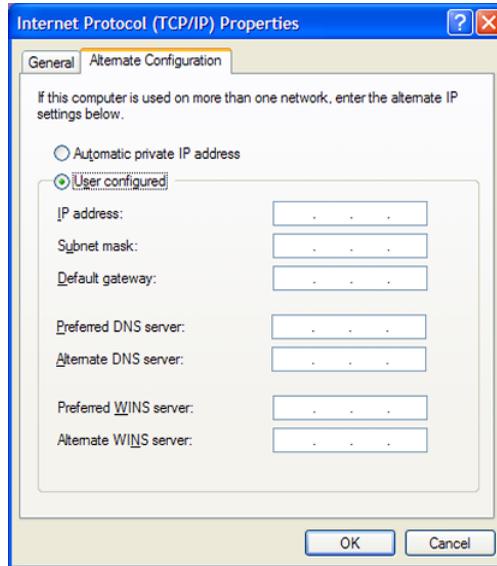
NetBackup 5240 CloudCatalyst Appliance の初期構成を実行するには

- 1 NIC1 アプライアンスポートに接続済みのノートパソコンで、[ローカルエリアの接続プロパティ (Local Area Connection Properties)]ダイアログボックスを開きます。

[全般 (General)]タブで、[インターネットプロトコル (TCP/IP) (Internet Protocol (TCP/IP))]**]を選択してハイライト表示し、[プロパティ (Properties)]をクリックします。**



[代替の構成 (Alternate Configuration)]タブで、次のタスクを実行します。



- [ユーザー構成 (User Configured)]をクリックします。
 - [IP アドレス (IP address)]に、192.168.229.nnn と入力します。nnn は 2 ～ 254 (233 を除く)の任意の数字です。
 - [サブネットマスク (Subnet mask)]に、255.255.255.0 と入力します。
 - [OK]をクリックします。
- 2** アプライアンスに接続されているノートパソコンで、SSH セッションを 192.168.229.233 に開き、アプライアンスにログオンします。
- ログオンは admin、デフォルトのパスワードは P@ssw0rd です。
- ログオンした後、ようこそメッセージがシェルメニューに表示され、Main_Menu ビューにプロンプトが表示されます。

- 3 Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを入力して、アプライアンスが接続する単一ネットワークの IP アドレスを設定します。

```
Configure IPAddressNetmaskGatewayIPAddress [InterfaceNames]
```

ここで、**IPAddress** は新しい IP アドレス、**Netmask** はネットマスク、**GatewayIPAddress** はインターフェースのデフォルトゲートウェイです。
 [InterfaceNames] オプションは省略可能です。

IP Address や **Gateway IP Address** には、IPv4 アドレスを指定する必要があります。**NetBackup CloudCatalyst** では、現在 IPv6 はサポートされません。

複数のネットワークを構成する場合には、追加する各ネットワークの IP アドレスを最初に構成する必要があります。次に、追加した各ネットワークのゲートウェイアドレスを構成します。必ずデフォルトゲートウェイアドレスを最初に追加する必要があります。以下の 2 つのコマンドを使います。

各ネットワークの IP アドレスの構成 ネットワークインターフェースの IPv4 アドレスを構成するには

```
IPv4 IPAddressNetmask [InterfaceName]
```

ここで、**IPAddress** は新しい IP アドレス、**Netmask** はネットマスクです。[InterfaceName] は省略可能です。追加する IP アドレスごとにこのコマンドを繰り返します。

追加した各ネットワークのゲートウェイアドレスの構成 Gateway Add GatewayIPAddress
 [TargetNetworkIPAddress] [Netmask]
 [InterfaceName]

ここで、**GatewayIPAddress** はインターフェースのゲートウェイです。**TargetNetworkIPAddress**、**Netmask**、**InterfaceName** は省略可能です。このコマンドを繰り返して、すべての宛先ネットワークにゲートウェイを追加します。

- 4 Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、アプライアンスの DNS ドメイン名を設定します。

メモ: DNS を使わない場合は、ステップ 7 に進んでください。

```
DNS Domain Name
```

ここで、**Name** はアプライアンスの新しいドメイン名です。

- 5 [Main_Menu] > [ネットワーク (Network)] ビューで、次のコマンドを使って DNS ネームサーバーをアプライアンス構成に追加します。

```
DNS Add NameServer IPAddress
```

ここで、*IPAddress* は DNS サーバーの IP アドレスです。

複数の IP アドレスを追加するには、スペースを空けずに各アドレスをカンマで区切ります。

- 6 [Main_Menu] > [ネットワーク (Network)] ビューで次のコマンドを使って、DNS 検索ドメインをアプライアンス構成に追加し、異なるドメインにあるホスト名をアプライアンスが解決できるようにします。

```
DNS Add SearchDomain SearchDomain
```

ここで、*SearchDomain* は検索用に追加する対象ドメインです。

- 7 このステップは省略可能です。ここでは、アプライアンスの *hosts* ファイルに、他のホストの IP アドレスを追加できます。

Main_Menu > Network ビューで次のコマンドを使って、ホストエントリをアプライアンスの *hosts* ファイルに追加します。

```
Hosts Add IPAddressFQHNShortName
```

ここで、*IPAddress* は IPv4 アドレス、*FQHN* は完全修飾ホスト名、*ShortName* は短いホスト名です。

- 8 [Main_Menu] > [ネットワーク (Network)] ビューで次のコマンドを使って、アプライアンスのホスト名を設定します。

メモ: このアプライアンスで Active Directory (AD) 認証を構成することを計画している場合は、ホスト名は 15 文字以下にする必要があります。そうしないと、AD 構成が失敗する可能性があります。

```
Hostname Set Name
```

Name は、このアプライアンスの短いホスト名または完全修飾ドメイン名 (FQDN) です。

一部の例外を除き、ホスト名はアプライアンス構成全体に適用されます。短縮名は次の場所に常に表示されます。

- NetBackup Appliance Shell Menu プロンプト
- 重複排除プールカタログのバックアップポリシー
- デフォルトのストレージユニットおよびディスクプール名

このアプライアンスが出荷時の設定にリセットされていて、以前のバックアップイメージのいずれかをインポートする場合は、アプライアンスのホスト名が次の規則のいずれかを満たしている必要があります。

- ホスト名は出荷時の設定へのリセット前に使われるものとまったく同じである必要があります。
- FQDN にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた短い名前を含んでいる必要があります。たとえば、「myhost」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい FQDN として「myhost.domainname.com」を使います。
- 短いホスト名にホスト名を変更する場合は、出荷時の設定へのリセットの前に使われた FQDN から得られる名前にする必要があります。たとえば、「myhost.domainname.com」が出荷時の設定へのリセットの前に使われた場合は、新しい短いホスト名として「myhost」を使います。

メモ: ホスト名は初期構成セッションの間のみ設定することができます。初期構成が正常に完了した後、アプライアンスで出荷時の設定にリセットすると初期構成を再入力できます。詳しくは、『NetBackup appliance 管理者ガイド』を参照してください。

このステップにより、NetBackup は新しいホスト名で動作するように再構成されます。この処理は、完了するまでにしばらく時間がかかることがあります。

Hostname set コマンドが動作するためには、少なくとも 1 つの IPv4 アドレスが必要です。たとえば、特定のホストのホスト名を v46 に設定するとします。そのためには、まず、その特定のホストが少なくとも 1 つの IPv4 アドレスを持つことを確認した後、次のコマンドを実行します。

```
Main_Menu > Network > Hostname set v46
```

- 9 (省略可能) 前述のネットワーク構成設定に加え、Main_Menu > Network ビューを使って、アプライアンスの初期設定時に結合を作成して VLAN をタグ付けすることもできます。
 - 2 つ以上のネットワークインターフェース間に結合を作成するには、Network > LinkAggregation Create コマンドを使います。
 - 物理インターフェースまたは結合インターフェースにタグ付けするには、Network > VLAN Tag コマンドを使います。

LinkAggregation と VLAN コマンドオプションについて詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

- 10 (省略可能) アプライアンスを構成して、クラウドへのアクセスにプロキシサーバーを使用します。

- 13** (省略可能) マスターサーバーで、NetBackup KMS (Key Management Service) を構成および起動します。

バックアップを暗号化するには、次のコマンドを使用して KMS を構成します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/nbkms -createemptydb
```

設定の一環として、次の値を入力します。

- ホストマスターキー (HMK) のパスフレーズと ID。
- キーの保護キー (KPK) のパスフレーズと ID。

KMS を開始するには、マスターサーバーで次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/nbkms
```

- 14** マスターサーバーで次のコマンドを実行して、アプライアンスのクレデンシャルのセットを生成します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bpnbat  
-addmachine<mediaservername><password>
```

ここで、<mediaservername> はアプライアンスのホスト名で、<password> は、後で実施する構成プロセスで、ホスト名に基づく証明書を検証するために使用する任意のパスワードです。

15 アプライアンスの役割として、メディアサーバーを設定します。

メモ: メディアサーバーとしてこのアプライアンスを設定する前に、このアプライアンス名を、一緒に使うマスターサーバーに追加してください。p.57 の「[マスターサーバーの構成によるアプライアンスのメディアサーバーとの通信](#)」を参照してください。

[Main_Menu] > [アプライアンス (Appliance)]ビューから、次のコマンドを実行します。

`Media MasterServer`

MasterServer がスタンドアロンのマスターサーバー、マルチホームマスターサーバー、またはクラスタ化されたマスターサーバーのいずれかである場合。それぞれのシナリオについて以下で説明します。

スタンドアロンのマスターサーバー このシナリオは、マスターサーバーホスト名が1つの場合です。この名前は、アプライアンスがネットワーク上でマスターサーバーを認識できていれば、完全修飾名である必要はありません。コマンドの表示例を次に示します。

`Media MasterServerName`

マルチホームマスターサーバー このシナリオでは、マスターサーバーに複数のホスト名が関連付けられています。ホスト名の区切り文字としてカンマを使ってください。コマンドの表示例を次に示します。

`Media MasterNet1Name,MasterNet2Name`

クラスタ化されたマスターサーバー このシナリオでは、マスターサーバーはクラスタにあります。ペリタスは、クラスタ名、クラスタのアクティブノード、クラスタのパッシブノードの順でリストにすることをお勧めします。このリストでは、カンマを使ってノード名を区切ります。コマンドの表示例を次に示します。

`Media
MasterClusterName,ActiveNodeName,PassiveNodeName`

マルチホームクラスタ化された
 マスターサーバー

このシナリオでは、マスターサーバーはクラスタにあり、関連付けられている複数のホスト名があります。ペリタスは、クラスタ名、クラスタのアクティブノード、クラスタのパッシブノードの順でリストにすることをお勧めします。このリストでは、カンマを使ってノード名を区切ります。コマンドの表示例を次に示します。

```
Media MasterClusterName,ActiveNodeName,  

  PassiveNodeName,MasterNet1Name,MasterNet2Name
```

アプライアンスの役割を設定するときに、今後問題が起こらないようにするため、ペリタスは関連付けられているすべてのマスターサーバー名を設定することをお勧めします。

CA 証明書の詳細が表示されたら、詳細を確認して `yes` と入力し、次のメッセージに応答します。

```
>> Do you trust the CA certificate? [yes, no] yes
```

ホスト ID ベースの証明書の配備が必要な場合はトークンを入力します。次のプロンプトを参照してください。

```
>> Enter token:
```

セキュリティ証明書について詳しくは、『**NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド**』の「**NetBackup のセキュリティ証明書**」の章を参照してください。

メモ: マスターサーバーのホスト名が **FQDN** の場合は、**FQDN** を使ってメディアサーバーのマスターサーバーを指定することをお勧めします。

16 次のプロンプトが表示されます。

```
>> Do you want to configure the appliance as a dedicated media  

server for NetBackup CloudCatalyst? [yes, no] (yes):
```

yes と入力します。

17 次のプロンプトが表示されます。

```
>> Enter the password for the host name-based certificate:
```

手順 **14** で作成したパスワードを入力します。

18 目的のクラウドプロバイダの **NetBackup CloudCatalyst Appliance** の設定ウィザードを完了します。

NetBackup 5240 CloudCatalyst Appliance は、1 つのクラウドストレージプロバイダでのみ構成できます。たとえば、アプライアンスを **Amazon S3** と **Amazon GovCloud** で同時に使用することはできません。

NetBackup CloudCatalyst Appliance の設定ウィザードで必要なパラメータについて詳しくは、『NetBackup Cloud 管理者ガイド』を参照してください。

■ Amazon S3

- | | |
|-----------------------------|--|
| 手順 1: クラウドストレージプロバイダ | Amazon を選択します。 |
| 手順 2a: クラウドストレージ領域 | ストレージ領域を選択または作成します。 |
| 手順 2b: NetBackup KMS 暗号化 | 手順 13 で、マスターサーバーで NetBackup KMS を有効にした場合は、yes と入力します。 |
| 手順 2c: SSL | [認証のみ (Authentication only)]: クラウドストレージにアクセスするときのユーザーの認証で SSL のみを使う場合は、このオプションを選択します。

[データ転送 (Data Transfer)]: SSL を使ってユーザーを認証し、NetBackup からクラウドストレージにデータを転送するには、このオプションを選択します。 |
| 手順 2d: ストレージクラス | Amazon クラウドストレージのストレージクラスを選択します (STANDARD または STANDARD - Infrequent Access など)。 |
| 手順 3: アクセスの詳細 | Amazon アカウントのアクセスキー ID と秘密のアクセスキーを入力します。 |
| 手順 4: ストレージバケットの構成 | ストレージバケットを選択または作成します。 |
| 手順 5a: MSDP キャッシュの DiskPool | MSDP キャッシュの DiskPool の名前を入力します。 |
| 手順 5b: MSDP キャッシュストレージユニット | MSDP キャッシュストレージユニットの名前を入力します。 |

■ Amazon GovCloud

- | | |
|--------------------------|---|
| 手順 1: クラウドストレージプロバイダ | Amazon GovCloud を選択します。 |
| 手順 2a: クラウドストレージ領域 | ストレージ領域を選択または作成します。 |
| 手順 2b: NetBackup KMS 暗号化 | 手順 13 で、マスターサーバーで NetBackup KMS を有効にした場合は、yes と入力します。 |

手順 2c: SSL [認証のみ (Authentication only)]: クラウドストレージにアクセスするときのユーザーの認証で SSL のみを使う場合は、このオプションを選択します。

[データ転送 (Data Transfer)]: SSL を使ってユーザーを認証し、NetBackup からクラウドストレージにデータを転送するには、このオプションを選択します。

手順 3a: クレデンシアルブローカー クレデンシアルブローカーを使用するか、標準的なアクセスの詳細を使用するかを選択します。

手順 3b: クレデンシアルブローカーの情報 クレデンシアルブローカーの詳細を入力します。

NetBackup マスターサーバーの db/cloud の場所に、必要な証明書と秘密キーのファイルがあることを確認します。

- UNIX:
/usr/openv/netbackup/db/cloud
- Windows:
install_dir\NetBackup\db\cloud
- アプライアンスのマスター:
p.84 の「マスターサーバーがアプライアンスのときのクレデンシアルブローカー用の証明書の配備」を参照してください。

手順 3b: アクセスの詳細 Amazon アカウントのアクセスキー ID と秘密のアクセスキーを入力します。

手順 4: ストレージバケットの構成 ストレージバケットを選択または作成します。

手順 5a: MSDP キャッシュの DiskPool MSDP キャッシュの DiskPool の名前を入力します。

手順 5b: MSDP キャッシュストレージユニット MSDP キャッシュストレージユニットの名前を入力します。

■ Microsoft Azure と Azure Government

手順 1: クラウドストレージプロバイダ Microsoft Azure を選択します。

手順 2a: Blob サービスエンドポイント Blob サービスエンドポイントを選択します。

手順 2b: NetBackup KMS 暗号化	手順 13 で、マスターサーバーで NetBackup KMS を有効にした場合は、 yes と入力します。
手順 2c: SSL	[認証のみ (Authentication only)]: クラウドストレージにアクセスするときのユーザーの認証で SSL のみを使う場合は、このオプションを選択します。 [データ転送 (Data Transfer)]: SSL を使ってユーザーを認証し、 NetBackup からクラウドストレージにデータを転送するには、このオプションを選択します。
手順 3: アクセスの詳細	Azure アカウントのストレージアカウントとアクセスキー ID を入力します。
手順 4: コンテナの構成	コンテナを選択または作成します。
手順 5a: MSDP キャッシュの DiskPool	MSDP キャッシュの DiskPool の名前を入力します。
手順 5b: MSDP キャッシュストレージユニット	MSDP キャッシュストレージユニットの名前を入力します。

19 次のように、デフォルトの Maintenance ユーザーパスワードを変更します。

- Main_Menu > Support > Maintenance コマンドを入力します。
- パスワードプロンプトで、デフォルトの**メンテナンス**ユーザーパスワード(p@ssw0rd)を入力します。
- **メンテナンス**シェルプロンプトで passwd コマンドを入力してパスワードを変更します。
- **Exit** と入力すると **NetBackup Appliance Shell Menu**に戻ります。

Support > Maintenance コマンドの使用について詳しくは、『**NetBackup** アプライアンスコマンドリファレンスガイド』を参照してください。

20 NIC1 アプライアンスポートからラップトップを切断します。

メモ: ネットワークに 192.168.x.x という IP アドレス範囲が使われている場合は、次のトピックで重要な情報を参照してください。

p.86 の「[NetBackup アプライアンスでの NIC1 \(eth0\) ポートの使用について](#)」を参照してください。

21 すべてのアプライアンスが構成され稼働したら、バックアップするクライアントソフトウェアをコンピュータにインストールする準備が完了します。

p.87 の「[NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード](#)」を参照してください。

p.91 の「[CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

マスターサーバーがアプライアンスのときのクレデンシャルブローカー用の証明書の配備

クラウドプロバイダで認証するためにクレデンシャルブローカーを使用するには、NetBackup CloudCatalyst Appliance を構成する前に、証明書ファイルを NetBackup マスターサーバーに配備する必要があります。マスターサーバーがアプライアンスの場合は、NetBackupCLI のユーザーアカウントを使用してこれらの証明書を配備する必要があります。

アプライアンスのマスターサーバーで証明書を配備するには

- 1 同じディレクトリにクライアント証明書、CA 証明書、クライアントキーを収集します。この例では、ファイル名は次のとおりです。

```
client.pem  
cacert.pem  
client-key.pem
```

- 2 次に示す scp コマンドを使用して、アプライアンスのマスターサーバーに PEM ファイルをコピーします。

```
scp *.pem <NetBackupCLI_user>@master123.example.com:/home/nbusers
```

ここで、<NetBackupCLI_user> は NetBackupCLI ユーザーのユーザー名です。

- 3 SSH を使用して、NetBackupCLI ユーザーとしてアプライアンスにログオンします。

- 4 次のコマンドを入力し、NetBackup クラウドの CA 証明書バンドル格納場所に、CA 証明書を追加します。

```
nbclldutil appendcert -sourceCert cacert.pem
```

- 5 次のコマンドを入力し、デフォルトの NetBackup クラウドディレクトリ (/usr/openv/netbackup/db/cloud) に、クライアント証明書とクライアントキーをコピーします。

```
nbclldutil copycert -sourcecert client.pem
```

```
nbclldutil copycert -sourcecert client-key.pem
```

構成後の手順

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup アプライアンスでの NIC1 \(eth0\) ポートの使用について](#)
- [NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード](#)
- [NetBackup appliance から Windows コンピュータへの NetBackup 管理コンソールのダウンロード](#)
- [CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール](#)

NetBackup アプライアンスでの NIC1 (eth0) ポートの使用について

デフォルトでは、NIC1 (eth0) は出荷時に IP アドレス 192.168.229.233 に設定されます。このプライベートネットワークのアドレスは、ノートパソコンからの直接接続によって初期構成を実行できるように予約されています。NIC1 (eth0) は、通常、ネットワーク環境に接続されません。

初期構成を完了すると、バックアップデータ転送を行わない管理ネットワークに NIC1 (eth0) を接続できます。ただし、プライマリネットワークが同じ IP アドレス範囲を使用する場合は、デフォルト IP アドレスの変更が必要になることがあります。NetBackup アプライアンスは、NIC1 (eth0) で管理者インターフェイスのデフォルト IP アドレスと同じ範囲においてネットワーク構成を使用できません。

例えば、NIC2 (eth1) が 192.168.x.x IP アドレス範囲に設定されている場合、NIC1 (eth0) のデフォルトの IP アドレスを別の IP アドレス範囲に変更する必要があります。

初期構成を完了した後に NIC1 (eth0) の IP アドレスを変更するには、次のいずれかを実行します。

- [NetBackup Appliance Web Console](#)で次の操作を実行します。

アプライアンスにログインしたら、[設定 (Settings)]>[ネットワーク (Network)]>[ネットワーク設定 (Network Settings)]の順にクリックします。[ネットワーク構成 (Network Configuration)]セクションで、NIC1 (eth0) の IPv4 アドレス設定を編集します。詳しくは、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』を参照してください。

- NetBackup Appliance Shell Menuで次の操作を実行します。
アプライアンスにログインしたら、[ネットワーク (Network)]>[IPv4 (IPv4)]コマンドを使用して NIC1 (eth0) の IP アドレスを変更します。
詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

メモ: アプライアンスで eth0 が構成されていない場合は、NetBackup Appliance Web Consoleからのチェックポイント操作が機能しません。この問題は、ポートの IP アドレスの構成を削除した場合にのみ発生します。この問題が発生した場合は、ポートを構成するか、NetBackup Appliance Shell Menuを使ってチェックポイントを作成するか、またはチェックポイントにロールバックします。ベストプラクティスとして、NIC1 (eth0) を使わない場合にも、IP アドレスを使って構成しておいてください。

NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード

NetBackup クライアントソフトウェアは、NetBackup appliance からバックアップを作成する任意のクライアントにダウンロードできます。NetBackup Appliance Web Console のログオンページには、クライアントパッケージをダウンロードするための [パッケージのダウンロード (Download Packages)] セクションがあります。

パッケージは、ドロップダウンボックス内でオペレーティングシステムの種類ごとに次のように表示されます。

- すべて (All)
- Windows
- Linux
- Solaris
- AIX
- HP
- BSD
- Mac OS
- VMware vCenter プラグイン

メモ: Linux、UNIX、Solaris、AIX、または BSD パッケージをダウンロードする場合、ベリタスは、GNU tar バージョン 1.16 以上を使用して .tar パッケージを抽出することをお勧めします。

詳しくは、ベリタスのサポート Web サイトの次の TechNote を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/TECH154080>

この手順には、ダウンロード方法以外にも、クライアント上のダウンロード済みファイルを抽出およびインストールする手順が含まれています。

NetBackup appliance からクライアントに NetBackup クライアントパッケージをダウンロードする方法

- 1 バックアップするクライアントにログインします。
- 2 ブラウザウィンドウを開き、アプライアンス URL を入力します。
- 3 ランディングページの中央の[パッケージのダウンロード (Download Packages)]セクションで、ドロップダウンボックスをクリックしてパッケージのリストを表示します。
- 4 選択したパッケージを右クリックして、クライアント上のダウンロード場所を指定します。

場所の例は次のとおりです。

- **Windows** プラットフォームでは、`C:\temp` またはデスクトップにパッケージをダウンロードします。
Windows システムでハードウェアの種類を判断するには、[マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ]を選択します。
- **Linux** または **UNIX** プラットフォームでは、`/tmp` にパッケージをダウンロードします。

メモ: 選択後に「パッケージがありません (No packages found)」というメッセージが表示された場合、現在アプライアンスにはクライアントパッケージがインストールされていません。この状況が起きる可能性が高いのは、アプライアンスを USB フラッシュドライブから再イメージした場合です。アプライアンスにクライアントパッケージをダウンロードしてインストールする場合は、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』を参照してください。「NetBackup Appliance Web Consoleで NetBackup Appliance を管理する」の章で、「手動ダウンロード方法を使った NetBackup Appliance ソフトウェアリリース更新またはクライアントパッケージのアップロード」を参照してください。

- 5 パッケージを圧縮解除します。
- 6 クライアントソフトウェアを次のようにインストールします。
 - **Windows** システム

setup.exe ファイルをクリックします。

- UNIX システム
 - .install スクリプトを実行します。

- 7 正常にクライアントソフトウェアをインストールした後、次のようにアプライアンスマスターサーバーの名前をクライアントに追加する必要があります。

Windows システム

- NetBackup をクライアントにインストールした後、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを開きます。
[スタート (Start)]>[すべてのプログラム (All Programs)]>[Veritas NetBackup]>[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)]
- バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースから、[ファイル (File)]>[NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]の順に選択します。
- [NetBackup マシンおよびポリシー形式の指定 (Specify NetBackup Machines and Policy Type)]ダイアログで、[バックアップおよびリストアに使用するサーバー (Server to use for backups and restores)]フィールドにサーバーの名前を入力します。次に、[サーバーリストの編集 (Edit Server List)]、[OK] の順にクリックします。
- 表示されるダイアログボックスで、アプライアンスマスターサーバーの完全修飾ホスト名を入力し、[OK]をクリックします。
- バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを閉じます。
- Windows コマンドプロンプトを開いて、NetBackup クライアントサービスを再起動します。次に、services.msc と入力し、Enter キーを押します。

UNIX システム

- クライアントで、次の場所にナビゲートします。
cd /usr/openv/netbackup
- ls と入力し、ディレクトリの内容を参照します。
- bp.conf ファイルをテキストエディタで開きます。
- アプライアンスマスターサーバーの完全修飾ホスト名を入力します。
- 変更を保存してファイルを閉じます。

p.91 の「[CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

p.90 の「[NetBackup appliance から Windows コンピュータへの NetBackup 管理コンソールのダウンロード](#)」を参照してください。

NetBackup appliance から Windows コンピュータへの NetBackup 管理コンソールのダウンロード

NetBackup appliance からアプライアンスへのアクセスに使う Windows コンピュータに NetBackup 管理コンソールソフトウェアをダウンロードできます。Windows コンピュータでは、NetBackup をインストールしなくても管理コンソールを使うことができます。NetBackup Appliance Web Console のログオンページには、NetBackup 管理コンソールのパッケージをダウンロードする [パッケージのダウンロード (Download Packages)] セクションがあります。

この手順には、ダウンロード方法以外にも、クライアント上のダウンロード済みファイルを抽出およびインストールする手順が含まれています。

NetBackup appliance から Windows コンピュータに NetBackup 管理コンソールのパッケージをダウンロードする方法

- 1 アプライアンスへのアクセスに使用する Windows コンピュータにログインします。
- 2 ブラウザウィンドウを開き、アプライアンス URL を入力します。
- 3 ランディングページの中央の [パッケージのダウンロード (Download Packages)] セクションで、ドロップダウンボックスをクリックし、[Windows] を選択します。
- 4 ドロップダウンボックスの下にパッケージファイル名が表示されたら、それを右クリックして [リンクされたファイルのダウンロード (Download Linked File)] または [リンクされたファイルを名前をつけてダウンロード (Download Linked File As)] のいずれかを選択し、パッケージをダウンロードする Windows コンピュータ内の場所を指定します。

たとえば、C:\%temp またはデスクトップにパッケージをダウンロードします。

- 5 パッケージを解凍します。
- 6 管理コンソールのソフトウェアを次のようにインストールします
 - クライアントで、Addons/JavaInstallFiles ディレクトリに移動します。
 - setup.exe ファイルをクリックします。

p.87 の「[NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード](#)」を参照してください。

p.91 の「[CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール](#)」を参照してください。

CIFS 共有と NFS 共有を使った NetBackup クライアントソフトウェアのインストール

すべてのアプライアンスの構成が完了したら、次の手順で NetBackup appliance で使用する Windows クライアントまたは UNIX クライアントに NetBackup クライアントソフトウェアをインストールできます。ここでは、CIFS 共有または NFS 共有を介してソフトウェアパッケージをインストールする手順について説明します。

メモ: クライアントをインストールするには、インストールの前に、アプライアンスに NetBackup クライアントソフトウェアパッケージをダウンロードして、NFS 共有または CIFS 共有に保存していることを確認します。

クライアントのインストール用の共有は、次のとおりです。

NFS: <appliance-name>:/inst/client

CIFS: ¥¥<appliance-name>¥install

CIFS 共有を介した NetBackup の Windows クライアントソフトウェアのインストール

NetBackup クライアントソフトウェアを CIFS 共有を介して Windows クライアントにインストールする方法

- 1 クライアントソフトウェアが存在するアプライアンスで、管理者のクレデンシャルで NetBackup Appliance Shell Menu にログインします。
- 2 次のコマンドを使い、CIFS 共有を開きます。

```
Main > Settings > Share ClientInstall Open
```
- 3 NetBackup クライアントソフトウェアをインストールする Windows クライアントコンピュータで、管理者としてログオンします。
- 4 アプライアンスの次の CIFS 共有フォルダへのマップまたはディレクトリを開きます。

```
¥¥<appliance_name>¥install
```
- 5 Windows の実行可能ファイル quickinstall.exe をクリックします。
この処理で NetBackup クライアントソフトウェアがインストールされ、クライアントにアプライアンスマスターサーバーの名前が追加されます。
- 6 アプライアンスで、次のコマンドを使い、共有ディレクトリを閉じます。

```
Main > Settings > Share ClientInstall Close
```

NFS 共有を介した NetBackup の UNIX クライアントソフトウェアのインストール

NFS 共有を使用して NetBackup クライアントソフトウェアを UNIX クライアントにインストールするには

- 1 NetBackup Appliance Shell Menu で、管理者のクレデンシャルを使用してマスターアプライアンスにログインします。
- 2 次のコマンドを使用して、マスターサーバーアプライアンスの追加サーバーリストにクライアントのホスト名を追加します。

```
Main > Settings > NetBackup AdditionalServers Add
```

- 3 次のコマンドを使い、NFS 共有を開きます。

```
Main > Settings > Share ClientInstall Open
```

- 4 NetBackup クライアントソフトウェアをインストールする UNIX クライアントホストで、ルートとしてログインします。

- 5 次の NFS 共有をマウントします。

```
<appliance_name>:/inst/client
```

- 6 クライアントで、NFS 共有ディレクトリ内のファイルを参照します。次のファイルまたはディレクトリが表示されます。

- NetBackup_8.1_CLIENTS2 や NetBackup_8.1_CLIENTS1
- .packages
- clientconfig
- quickinstall.exe
- PC_ClnT
- docs
- unix-client-install

- 7 クライアントで、テキストエディタを使用して次のファイルを開きます。

```
/inst/client/clientconfig/defaults.txt
```

- 8 ADDITIONALSERVERS エントリに、この NetBackup ドメインの 1 つ以上のメディアサーバーを追加します。ホスト名のみを使用して、メディアサーバーを指定します。複数のメディアサーバーを追加する場合は、カンマ区切りで列記します。

例:

```
MASTERSERVER=master123.test.com
ADDITIONALSERVERS=media1.test.com,media2.test.com,media3.test.com
```

メモ: クライアントホストのバックアップの作成に使用されているメディアサーバーを優先します。この NetBackup ドメイン内のメディアサーバーが不明な場合は、マスターアプライアンスで Main > Settings > NetBackup AdditionalServers Show | ShowAll コマンドを実行します。NetBackup 管理コンソールで、メディアサーバーを調べることもできます。

ファイルを保存して、エディタを終了します。

- 9 クライアントの /tmp ディレクトリに NetBackup 応答ファイル (NBInstallAnswer.conf) を作成します。

例:

```
CA_CERTIFICATE_FINGERPRINT=<fingureprint_value>
AUTHORIZATION_TOKEN=<token>
```

応答ファイルとその内容について詳しくは、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。

- 10 次の情報を使って NBInstallAnswer.conf に値を指定します。

```
CA_CERTIFICATE_FINGERPRINT=<fingureprint_value>
```

例 (読みやすくするために指紋の値はまとめられています):

```
CA_CERTIFICATE_FINGERPRINT=30:A5:9A:D1:18:F0:01:E4:21:E8:0D:A0:
26:95:14:52:7C:7A:58:B1
```

NetBackup 環境のセキュリティ構成によっては、応答ファイルに AUTHORIZATION_TOKEN オプションを追加する必要があります。

NetBackup の応答ファイルに関する追加情報を参照できます。

『NetBackup インストールガイド』を参照してください。

CA 証明書の指紋と認証トークンに関する追加情報を参照できます。

『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

- 11** `unix-client-install` スクリプトを実行します。

この処理で **NetBackup** クライアントソフトウェアがインストールされます。

- 12** クライアントで次のファイルを確認します。手順 **8** で `defaults.txt` ファイルに追加したメディアサーバー名が `bp.conf` ファイルに含まれていることを確認します。

```
/usr/opensv/netbackup/bp.conf
```

- 13** アプライアンスで、次のコマンドを使い、共有ディレクトリを閉じます。

```
Main > Settings > Share ClientInstall Close
```

p.87 の「[NetBackup appliance からクライアントへの NetBackup クライアントパッケージのダウンロード](#)」を参照してください。

p.90 の「[NetBackup appliance から Windows コンピュータへの NetBackup 管理コンソールのダウンロード](#)」を参照してください。

記号

- 52xx マスターサーバーアプライアンス
 - NetBackup Appliance Shell Menuからの初期構成 48
 - USB および NetBackup Appliance Shell Menuからの再構成 48
 - 52xx マスターサーバーアプライアンスの再構成
 - USB および NetBackup Appliance Shell Menuから 48
 - 52xx マスターサーバーアプライアンスの初期構成
 - NetBackup Appliance Shell Menuから 48
 - 52xx メディアサーバーアプライアンス
 - NetBackup Appliance Shell Menuからの初期構成 59
 - 52xx メディアサーバーアプライアンスの初期構成
 - NetBackup Appliance Shell Menuから 59
 - 52xx Appliance の構成
 - NetBackup Appliance Web Consoleから 31
 - アプライアンスのメディアサーバー
 - マスターサーバーの構成による通信 57
 - アプライアンスの構成
 - ガイドラインについて 5
 - ガイドライン
 - アプライアンスの構成 5
 - マスターサーバーの構成
 - アプライアンスのメディアサーバーとの通信 57
 - 初期構成チェックリスト
 - NetBackup Appliance 25
 - 初期構成ページ
 - NetBackup Appliance Web Console 13
 - 最大伝送単位サイズ
 - の設定について 29
 - 概要
 - アプライアンスの構成ガイドライン 5
 - 設定
 - 最大伝送単位サイズの 29
- ## C
- CIFS 共有と NFS 共有
 - NetBackup クライアントソフトウェアのインストール 91

- CloudCatalyst
 - クレデンシャルブローカー 84
 - 構成 70

I

- IPv4 と IPv6 のサポート 11

N

- NetBackup appliance
 - initial configuration checklist 25
- NetBackup Appliance Web Console
 - 初期構成ページ 13
- NetBackup クライアントソフトウェア
 - CIFS 共有と NFS 共有を使ったインストール 91
- NetBackup アプライアンス
 - NIC1 (eth0) ポートの使用 86
- NetBackup アプライアンスで
 - NIC1 (eth0) ポートの使用 86
- NetBackup 管理コンソール
 - NetBackup のアプライアンスから Windows コンピュータへのダウンロード 90
- NetBackup クライアントパッケージ
 - NetBackup のアプライアンスからダウンロード 87
- NetBackup のアプライアンスから NetBackup クライアントパッケージをダウンロード 87

あ

- アプライアンスシステム
 - 構成順序 9
- アプライアンスロール
 - NetBackup 52xx 用 10

か

- 構成順序
 - アプライアンスシステム 9
- コマンドの制限
 - 構成されていないアプライアンス 11

さ

順序

アプライアンスのシステム構成 9

初期構成

NetBackup Appliance Web Consoleから 52xx

Appliance 31

初期構成チェックリスト

概要 24